
【会話ネタ】とある変態の妄想目録。【コント・漫才風】

星霧 圭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【会話ネタ】とある変態の妄想目録。 【コント・漫才風】

【Nコード】

N5879L

【作者名】

星霧 圭

【あらすじ】

若干変態で妄想癖のあるアマチュアのお笑いネタ作家が描く「^{ボケ}KとA」の完全なるギャグの読み切り作品をまとめた作品となります。簡単に言くと、漫才やコントの台本に近いです。動き（映像）なしでも楽しめる様に編集してみました。少し空いた時間にお気軽にどうぞ。

読み切りをまとめたものですが、若干ですがキャラ的な繋がりがあ
る場合があるので、それを楽しんでもらいたため連載扱いとさせて
頂きます。少々場違いな投稿ですが、宜しければご覧になって頂

けると幸いです。

ちなみに、タイトルの「とある○○」シリーズとは全く関係ありません。ちょっと使ってみたかったです。（笑）

【会話ネタ】口説き方教室。【コント】

K：皆さん、おはようございます！

A：おはようございます！

K：今日は私、「Kの女性の口説き方教室」に来て頂いてありがとうございます。今日は女性の口説き方と言うのをレクチャーして行きたいと思います。と言っても今日は参加者さんが一人なのでマンツーマンで教えますね。

A：お願いします。

K：じゃあ、いきなりで少し恥ずかしいと思うけど口説き文句を私の後に繰り返してください。

A：頑張ります。

K：君をずっと見つめていると周りの女性が虫ケラのように見えてくるよ。

A：えっと、えっと、君を見つめていると虫ケラのように見えてくるよ。

K：悪口になってるからね。もう少し落ち着こうね。

A：はっ、はい。

K：君とは昔にも会ったような気がする、、、、これってデジャヴっ

てやつ？

A：え、えっと、君はデブってやつ？

K：どんだけ物覚え悪いんですか。

A：すみません。

K：では、続けます。この世の中に生きている者の中でイチバン素敵さ、、そうとしか思えない。このバラを、、どうぞ。

A：え、えっと、この世の者とは思えない。

K：ただの悪口になってますね。

A：このバラ肉を、、どうぞ。

K：余計な単語付けないで下さい。生臭くなってしまいますよ。

A：これでおいしいチャーシューでも作りなよ。

K：私の話どんだけ無視ですか。そんなので口説けませんよ。「わあ！豚バラ肉だ！嬉しい！」って言う女の子街中には居ないですから。次行きますよ。また復唱して下さいね。

A：はい。

K：君の透き通った瞳

A：君の透き通った足

K：それでは幽霊になってしまいますね。残念ながら幽霊を口説く
の難しいと思われませんが。続けます。
そして細く綺麗に伸びた足、

A：そして、細く綺麗に伸びきった白い足

K：伸びきった、はやばいですね。伸びきった白い足ってなんかもう
死後硬直始まつてみたいになりますので。

A：この菊をどうぞ。

K：余計な気遣いは要りませんから。
じゃあ、次は「私、そろそろ帰るね、」に対しての口説き文句で
す。

「君の寝顔を見たい。だから今夜は一緒に居よう。」これなら短い
ので簡単だと思いますよ。

A：それくらいなら大丈夫です！むしろアレンジ出来ますよ！

K：じゃあ、女性のセリフ言いますのでその後をお願いします。

A：はい。

K：「私、そろそろ帰るね、」

A：君の寝顔を見たい。だから、この後君の帰り道をこっそり付い
て行って、君の家に忍び込んで見るよ

K：もれなくストーカーですよ。

A：直接見るのは恥ずかしいからカメラで見るよ。

K：盗撮も兼ねてますよね。

A：ほら。これが君の分のギャラだよ。

K：販売しようとしないで下さい。

A：はい。ギャラは1980円ね。

K：安いよ。安すぎるよ。電気店の目玉品のトースターくらいしか買えませんよ。

A：あと、ポイントを10%追加でいいかな？

K：セコいよ。10%って198ポイントだけじゃない。ってかポイントって何のだよ。今、流行のエコポイントですか。

A：いえ、エロポイントです。

K：ベタすぎるわ。それで何ができるんだよ。

A：僕にエロスな命令が出来ます。

K：もう、目からウオッカでも一気飲みして死んだら良いと思うよ。

A：あゝ、残念。それを命令させるには150ポイントが必要です。

K：残念とかいつてるけど、198ポイントあるから足りちゃってるし。しかも、エロ全くの無関係。じゃ、ポイント使うので実行してください。

A：あ、ちなみに、残り48ポイントで「見逃してあげる。」ってのも出来ます。

K：往生際悪いですね。

A：全く困った人ですね。

K：あなたのことです。

A：顔が見てみたいわ。

K：鏡どうぞ。かなり話がそれてしまいましたね。戻しましょう。今度は実践です！習うより慣れろ！！です。私の講習を受けたあなたなら大丈夫です！

A：思い返すと、僕って悪口と盗撮とエロポイントの事しか喋ってませんけど。

K：、、。実践あるのみです！さあ、外に出て来ましたので、行って来て下さい！

A：うわ、ドキドキして来ました。

K：大丈夫。自信を持って下さい。当たって砕けるです！ドカーン。

A：今、砕けた音しませんでした？！

K：そんな事ないですよ。グッドラック。

A：よし！、、あの、君を見つめていると虫ケラのように見え
てくる。これは、デブってやつ？この世の者とは思えない！盗撮さ
せてくれたらエロポイント差し上げます。

K：うわあ。見事なまでの悪口のフェスティバル。

A：あつ、、待って下さい！、、Kさん。ダメでした。

K：でしょうね。何でダメか解ってますか？

A：はい！あの女の性格が悪いんですよ！！

K：やっぱり、目からウオツカでも一気飲みして死んで頂けま
すか？

A：じゃあ、普通に行って来ます。

K：解ってるんなら最初からやって下さい。

A：じゃ、僕の好みのタイプのあの小さい子行って来ます。

K：幸運をお祈りします。

A：あのさ、今って時間大丈夫？！あ、そう。うつん。解った。ご
めんね。

K：あ、戻ってきた。

A：これから小学校があるから無理だそうです。

K：鼻にかっぱえび。ん突っ込んで欲しいのか、この犯罪者。小さ
いってそっちの意味ですか。

A：タイプだったもんで。

K：ダメですでもう一度行つて来て下さい。

A：解りました、、、ねえ、今つて時間大丈夫？そっか、、、え
っ本当！？ありがとう！じゃあ、行こうっか。

K：えっ！？

A：あ、カバン持つよ。

K：成功しちゃったの！？

A：うわ、重いね、このランドセル。

K：待て待て待て待て。待ちなさいこの犯罪者。

A：誰が、ロリコンだって言うんで。か？！

K：ロリコンとは言ってますが、言おうとはしました。このロリ
コン犯罪者。伏せる文字が違いますよ。

A：君、、、。良い匂いにするね。

K：あゝ、あなたからは犯罪の匂いしかないですけどね。君、危ないからもう行って良いよ。ごめんね。

A：ええゝ、せつかく捕まえたのにいゝ。

K：警察いたらコイツ捕まえてもらったのにいゝ。

A：じゃあ、今度はあのミニスカートの女の人にします！

K：欲望の赴くままにですね。先に警察呼んでおきましょうかね。
ピッ！

A：スカートの中に頭を入れさせてください！

K：欲望に正直すぎるでしょ。あゝ、拒否されてる。

A：安心して、ゝゝ、怖くないから。

K：怖いに決まってるでしょ。

A：大丈夫、俺にはやましい気持ちなんて全く無いから。

K：大アリです。やましさを台風が出来そうなくらいやましい気持ちがありますね。最早、あなたの半分はやましさを出来ています、
と言っても過言ではないと思います。「愛しさをやましさと心強さ」
でCDデビューも出来そうです。

A：ゝゝゝ、失礼しまーす！

K：失礼すぎるでしょ。もう失礼と変態を通り越してただの性犯罪者ですよ。

A：大丈夫！怖くないから！！

K：怖いわ！！

A：エロポイント差し上げますから！

K：何の説得にもなっていないよ！あ、お巡りさんこっちはです。この人です。

A：え、え！？

K：元気だな。

A：お願いします！逮捕しないで下さい！エ、エロポイント上げますからあ！！

K：少し長くなってしまいましたが、これにて「Kの女性の口説き方教室」お開きにしたいと思います。それでは、また会いましょう。あ、受講料払ってくださいね。

A：エロポイントでもいいですか？

K：だめです。

【会話ネタ】口説き方教室。 【コント】（後書き）

沢山の作品の中から星霧の作品をご覧頂きありがとうございます。
そして、最後まで読んで頂けてとても光栄です。

まだまだ、後日にいくつか他にも投稿致しますのでご興味のある方は、是非またご覧になって下さると嬉しいです！他の作品を短編読み切りで投稿しておりますので、そちらも宜しくお願い致します！
貴重なお時間を星霧のために使って頂きありがとうございます！
！

【会話ネタ】誕生日。【漫才風】

A：そういえばさ、お前誕生日だったんだって？

K：そう、4月11日で27歳になったわ。

A：あけましておめでとうー（棒読み）。

K：なんか、いろいろ突っ込みたいんだけど、ありがとう。

A：27歳の目標は？

K：俺、ラーメンが好きだから27歳の目標は、ラーメン（つけ麺）を100杯食べたいね。まあ、お前も6月生まれだからもうすぐ誕生日ではあるけどな。

A：じゃあ、27歳のお祝いに麺を27本食べましょう。

K：節分と誕生日を一緒にしないですよ。節分でなまはげが家にやってくる様なもんだし。

A：泣く子はいねが、泣く子は外！！

K：なまはげの姿で子供驚かして、泣いたら外に出すって最悪だな。お前の好感度は只今絶賛急降下中だぞ。

A：泣く子はいねが、泣く子は家！！

K：何気に好感度気にするなよ。

A：泣く子はいねが、泣く子は、お菓子あげるから泣きやんでよ。

K：どんだけ好感度気にしてんだよ。物で釣らないで下さい。お前はそんな好感度大事か？

A：大切。この前、お前の家から黙って借りて来たこのエロDVDより大切。

K：エロに忠実+窃盗罪でお前の大切な好感度台無しだよ。

A：50枚のこのエロDVD返すよ。

K：俺の好感度も台無しだな。ってか、そんなにも持ってたっけなあ。

A：それにしても、なんで女優が妹の設定でニーソを履いたものばかりなん、って痛いな！

K：それ以上、リアルな内容言つと殴るよ。本気で殴るよ。堅く握った拳で殴るよ。

A：本気でグーで殴ってから言つなよ。「殴られると痛いんだよっ、お兄ちゃんっ」

K：どうやらもつと殴られたらしいな。

A：痛い！痛い！だから殴ってから言わないでよ。「ねっ、お兄ちゃんっ」

K：お前の誕生日祝いは27回殴って欲しいのかな？

A：いや、遠慮しておく。ってか、もう3分の1は貰った気がするし。

K：じゃあ、何が欲しいんだ。

A：えーつと、27人の妹。

K：お前も「妹萌え」かよ！

A：お前のエロDVDのせいなんだよっ、「お兄ちゃんっ」

K：残りの27回の3分の2殴ってやるよ。

A：やめてよぉ、「お兄ちゃんっ」

K：いい加減にしろ。

A：痛い！痛い！痛いって！！「痛いよ、お兄ちゃんっ」

K：お前の誕生日を命日にしてやるよ。

A：ごめんなさい、、ロリコンのお兄ちゃんっ。

K：伏せるトコ違うわ！！

【会話ネタ】誕生日。 【漫才風】（後書き）

若干、実話が入っております。（笑）
変態ですみません。。（ノA、）。。

【会話ネタ】飛び降り。【コント】（前書き）

飛び降り自殺をしようとしている女性をKとAが止めると言うお話。
K：新人刑事 A：先輩刑事 女：飛び降り自殺をしようとしている女性

と言う設定です。3人での掛け合いのため若干解りにくい部分もあります。ご了承くださいませ。

作者の趣味で微妙にアニメネタ等が入っておりますが解らない場合はスルーでお願い致します。（笑）

【会話ネタ】飛び降り。【コント】

K：さて、、困ったもんだな。俺が刑事になって初めての仕事が飛び降り自殺を止めるだなんて。先輩が来るまでどうにか間を繋がないと、、あつ！先輩。

A：何も言わずに、、抱いてくれ。

K：全力でお断りだよ！

A：ねえ、、お願いだからさあ、、！

K：懇願すんじゃないよ！お願いしてどうにかなる問題じゃないだろ。

A：この前5万円借りてあげたじゃないかよ。

K：なんで弱みを前面に出してのお願い？！どんだけ強気でなおかつ無謀なんですか！両手を後ろで縛った状態で頭突きのみを武器に戦場に突っ込む様なもんですよ！ってか、先輩格好おかしいですよ。何で現場に海パン一枚で登場なんですか？！

A：あつ、失礼！これは私とした事が、、サンオイルを塗るのを忘れていたよ。

K：そこじゃないですよ！先輩がこんがり焼けようが焼けまいが僕の知った事じゃないですし！何で海パン一枚で登場したかって話です！

A：そうだ、、これから海に行かないか？！

K：行きませんよ！仕事中でしょ。

A：だったら、、これから山に行かないか？

K：場所で行かないって言うてるわけじゃないんです。ってか、そんな格好で行ったら虫の格好の餌食ですよ。

A：それなら、これからスキーに行かないか？

K：行つて凍え死んでしまえ！もう、いつその事。

A：それなら、、これから、、行かないか？！

K：思いつかないんなら無理して言わないで下さい！だから、何で海パン一枚なんですか？！

A：海パン刑事だからだ！

K：そうですか。ありがとうございます。

A：見よ！この肉体美！！

K：文字だけなので見えません。

A：サンオイル塗ってくれないか。

K：嫌です。

A：サンツ！オイルツ！塗って！くれないかつ！！

K：テンション上げて言われても嫌です。

A：サンツ！オイルツ！サンツ！オイルツ！サンツ！オイルツ！塗ってくれないかつ！！

K：3回言っても嫌です。一瞬、あんたの頭がついにおかしくなったのかと思いましたよ。

A：それでっ！現在のっ！状況はっ！？

K：テンション戻してください。えっと、現在の状況は、あちらの女性が飛び降り自殺をしようとしています。しかも、さっきまでの我々のやり取りが終わるの待っててくれました。

A：説明ごころう。俺にまかせとけ。、、、、おゝい！そんな隣のビルで何しようとしてるんだあゝ？！

K：遠いですよ。何で隣のビルから説得しようって事になってるんですか。

女：私いゝ、死にたいのおゝ！

K：お前も付き合わなくていいよ！ってか、今回は3人目が入ってくるのかよ！初の試みでビックリしたわ。あ、今回はこんな感じでお送りしますので読者の方は頑張っけて付いて来て下さいね。先輩、女性はそんな遠くじゃなくて、すぐそこですから。

A：おい！飛び降り自殺なんて、、、、そんな事してどうなるんだ！

？こんなところに立つたら危ないじゃ／＼あ、ごめん。

K：どうしたんだ？

女：唾がかかるから離れて欲しいんだけど！

K：今度は近けえよ！！唾が懸かるなんてどんだけ至近距離ですか？！

A：君^{キミ}ッ！サンッ！オイルッ！塗って！くれないかつ！！

K：近いのを良い事にどさくさに紛れて女性に変なこと頼まないで下さい！しかも、またテンション上げて言ってもダメですって。

女：サンッ！オイルッ！塗るの！お断りしますっ！！

K：お前までテンション高いのかよっ！ああ、、、今日、俺きつと大変だな。とりあえず、お互いちょうど良い距離に戻って説得を再開しましょう。

A：よし、こんな時はな気迫で勝負だ。おい！ねえちゃん！そんな事してどうなるんだ？！ねえちゃんが死んだら悲しむ人だっているんだ！

K：そんな言葉遣いじゃ怖がっちゃいますよ。ちゃんと「お」をつけてあげなきゃダメですよ！

A：ねえちゃん！そんな事してどうなるんだお（*。ω。）？！
ねえちゃんが死んだら悲しむ人だっているんだお（*。ω。）！

K：「お」付けるとこ違いますよ！語尾に付けたら2ちゃんねるみたいになっちゃうじゃないですか！！

A：すまん。勘違いしてしまったお（*。ω。）！

K：もう、「お」付けなくていいですよ。

女：、、私だって恋人くらい居たんですお（*。ω。）！

K：また、あんたまでか！貴女まで「お」を付けるな！ああゝつ、もう2人でボケンな！処理がめんどくさいんだよ！

A：「恋人くらい居た。」、、過去形か。

女：そうよ！ある女に取られたのよ！！

A：それは災難だったお（*。ω。）

K：もう、「お」は付けしないで下さい！緊張感台無しです。

女：今度その女を見たら殺してやるの！！

A：殺して、そして四角い箱に詰めてやる！だなんてそんな過激な事は言うもんじゃないぞ！

K：そこまで言っていないですよ。それどこのネウロの患者ですか。

女：あなたにだって恋人くらい居るでしょ？

A：もちろん。むしろ複数居る。

K：後半の「複数」は言わない方がいいと思いますけど。

女：だったら、取られたりしたらムカつくでしょ！？まあ、海パンなあんたの彼女なんてどうせ不細工でしょうけどね！

A：言われてるぞ。

K：どう考えてもあんたでしょ。

A：しょうがない、今見せてやるよ。

女：ここに居るの?! 職場恋愛?! 良いご身分な事ね。

A：連れて来るから待つてろ。言っておくがお前、横取りしようとするなよ。

K：しませんよ。

A：紹介しよう、マナカ・ネネ・リンコだ。

K：ラブプラスかよ!、、あのですね、これは彼女って言いませんし、これは横取りしたりされたりするもんじゃないですから。

女：その女、殺してやるうううっ!!

K：ここに男を横取りされたやつ居た! え、何? 男取られたってラブプラスにですか?!

女：ふふふ、壊してやる、、その女あ!

A：これは私が買った女だああっ！何があっても私が守る！！

K：カツコ良い事言ってるんですけど、「買った女」ってトコのせいで、全部台無しですね。ああ、そんな頭の上まで持ち上げると落とした時あぶないですよ。

女：そんな女、消えてしまえばいいんだあ！

K：あ、突風が。

A：あああっ！マナカ・ネネ・リンコオオッ！

K：あゝあ、ビルの下に落ちてバラバラですね。ニンテンドーDS i エルエルじゃなくて、ニンテンドーDS i バラバラになっちゃいましたね。

女：その突っ込み無理矢理ね。つまらないわ。

K：しょうがないだろ！俺は、無理にでもそう言う役割なんだから！

A：マナカ・ネネ・リンコじゃなくて、その女が落ちれば良かったんだっ！

K：そして、あんたは刑事にあるまじき発言をするのはやめて下さい。

A：初めての彼女達だったのに、。。。

K：元氣出して下さい。きっと新しいキャラのも出ますって。

A：マジで！？いつ発売！？どんな女の子！？綺麗系！？可愛い系！？

K：どんだけ食いつき良いんですか。

A：その娘ってサンオイル塗ってくれる！！？

K：そんな機能は付きません。間違っても付きません。永遠に付きません。僕のあなたへの悩みも尽きません。お願いだから、死んでくれませんか？まあ、元氣が出たみたいなので何か他に方法を考えないですね。

A：じゃあ、、口説いちまおう。

K：どんな発想ですか。

A：女なんか簡単なんだよ。ちよろいつて。

K：ラブプラスとしか付き合った事しかないのに、そのすごい自信はどっから来るんですか。じゃあ、それやってみましょう。

A：と、と、と、と、取りあえず、ど、どうしたら良いかな！？

K：どんだけ緊張してるんですか！さっきまで普通に話してたのに、口説くとなったら緊張しすぎですよ。じゃあ、「君を大切にすることを」「必ず助けるから」みたいなので行きましょう。

A：きつ、き、きつ

K：頑張ってください。「君をたいせつにしたい」です。

A：き、き、君にわいせつをしたい。

K：最悪な間違え方だな。

A：か、か、必ず、君にわいせつをしたい。

K：間違えるのにも程があります。

A：わつ、わ、私は君を助けたい。そう、必ず援助したい！

K：なんか援助とか、響きが卑猥でしかないんですが。

A：ホテル代別、3万でどうだ！

K：やっぱり、そっち行っただか、。

女：何ふざけた言ってるの?!この海パンは！

K：この人ふざけてますよね。許してあげて下さい。

女：、、ホテル代別で5万でなら。

K：ふざけてる、って「値段が」でしたか。僕もう帰っていいですか。

A：、、じゃあ、4万でどうだ！

K：値切るな。帰りたいけど先輩を放って帰れないじゃないですか。

A：放って置けないって、お前もしかして俺の事、、

K：はい。一回ぶっ飛ばしたいと思っています。

女：じゃあ、お互いの間あいだをとって4、5万でどうかしら？！

K：どこのフリマでの台詞だ！まだそっちのお話進行中でしたか？
！

女：4、5万で私を好きに出来るのよ！安いと思わない？

A：じゃあ、後輩のお前になら特別に、私の事を4万で好きにしてもいいぞ。

K：では、お金払うので2人ともぶっ飛ばしていいですか？その後、飛び降りてください。僕帰りたいので。

A & 女：……。

A：いやっ、何でもお金で解決するのは良くないと思うなあ。

女：そ、そうよね。

A：とっ、とにかく、私は相手はどうあれ、恋人を愛していたんだ。愛を知れば人生変わるぞ。

女：じゃあ、、、愛された事の無い私を抱きしめて！！そうしたら、飛び降りをやめる事も考えてもいいわ。

K：会話めちゃくちな上に超展開だな。

女：でも、、、近づかれて捕まるのは嫌だわ。、、、そうね。私の代わりにあなたがその後輩の刑事さんを私だと思って抱きしめる、つてのでどうかしら？

K：意味わかんないんですけど！なんで、こんなおっさんに抱きしめられなきゃならないんですか。気は確かですか？！頭おかしいんじゃないですか！？むしろ、あんたもう落ちてもいいんじゃないかなあ！？うん！俺が許す！今すぐ落ちろおおっ！！

A：しょうがないな、我慢してくれ、、、（ビチャビチャ）　うふふ

K：「うふふ」とか言うな気持ち悪い！しかも、先輩さっき「ビチャビチャ」って身体にサンオイル塗りましたよね？！

A：さあ、人助けだと思って！

K：僕は助けてもらえないんですか！？

A：さあ、ぬるぬるでドロドロの関係になりましょ。

K：そんな関係は嫌です。そんで急にオネエ言葉は気持ち悪いのでやめて下さい！しょうがない、、、ここは我慢だ！

A：いくわよ。ぎゅうつう。ああ、、、エクスタシーッ！

K：うわあああっ！叫ぶなっ！気持ち悪いっ！この不快感の感想で原稿用紙2枚くらいは余裕で書き綴れそうだ！、、どうだ！？これでお前の希望は叶えたぞ！！

女：やっぱり、ビルの上って高いわねえ。

K：見てねえし！やっぱり、案の定見てねえし！！

女：あ、ありがと。満足したわ。

K：絶対見てなかったろ！？じゃあ、考え直してくれるんだな？

A：エクスタシーッ！

K：会話に割り込んでまで、気持ち悪い事言うな！

女：でも飛び降りるの、やっぱりやめないわ。

K：何、じゃあ俺って抱きつかれ損？！

A：何、じゃあ私って抱きつき得？！

K：もう、思い出したくないのでさっきの事はもう口に出さないで下さい。気持ち悪い。

A：ああ、、エクスタシーッ！

K：思い出し笑いならぬ、思い出し興奮しないで下さい。気持ち悪い。

じゃあ、さっきのそこから戻らないとですね。

A：しょうがないな。また抱きしめる所からやるのか。

K：そこじゃないです。

A：ああ、、エクスタシーッ！

K：そこでもないです。説得の所からです。

A：じゃ、気を取り直して。

K：宜しくお願いします。

A：こんなところから落ちたらどうなると思ってるんだ。下手をすればなあ、、擦り傷を負うぞ！

K：その程度で済むか！下手すりゃ死んじゃうんですよ！

A：そんな死ぬような、ふざけたことをするんじゃない！

K：ふざけた格好のあんたには言われたくないけどな。

A：君の母さんは泣いているぞ！

K：どっちかって言うと、お前の母さんがな。

A：そんな風に、君を育てた憶えは無い！

K：向こうもお前に育てられた憶えはないと思うぞ。

A：悩んでたつてしょうがない。ここは思い切れ！

K：思い切つて飛ばれると我々が困ります。

A：じゃあ、3秒だけお前に時間をやろう！！3（スリー）〜2（ツー）〜1（ワン）！バンジー！！

K：それ、飛ぶ掛け声です！飛び降りの助長しないで下さい。

女：私、飛び降りようかな。

K：飛んじゃダメですって！

A：アーメン！

K：アーメンとか言うな！そして、胸の前で十字を切るな。止めてください。

A：おい！自殺なんてして何が変わると言うんだ！？飛び降りて死んだらなあ、今の会社でのキツイ仕事やイジメ、多数ある借金から開放されるだけだぞ！

女：そうなの！？

K：ちよつ、止めるよ！止めて下さい。

A：あと、噂だが天国は食べ物も美味しいらしいぞ。

K：背中押すなよ！今の聞いたら俺も「いいかも！」って思っちゃ

ったよ。

A：来週の月曜日、飛び降りてくれるかな？

K：いいとも！って言うんでも思ったか！？

女：いいともあ！

K：言うな！来週の月曜にも飛ばうとされたらこっちも困るわ。

A：確かにまた来るの面倒だしな。

K：先輩。こうなったら直接止めた方がいいですよ

A：じゃあ、今からこの拳銃で撃ち殺してからそっちに行くぞ。

K：アブねーよ！考え方が極めてアブねーよ！まさにアブない刑事だな。そんなアブないあなたは是非殉職して下さい。お願いします。アブないので何か、直接じゃなくてほかの方法はないんですか？

A：もう、手は打ってある。

K：そうなんですか？！さすが先輩！

女：もう、私あなた達のバカっぷりに我慢できない。飛び降りるわ！

K：バカは基本こっちの海パンだけですけどね。

A：じゃあ、好きにすればいいさ。

K：えっ、大丈夫なんですか？！

A：任せとけ。女性と話をしている間に下にマットを敷くように指示して置いておいた。

K：さすがです！

A：そう、ゝゝ。体育の授業で使うマットと同じマットをな！！

K：死んでしまうわ！！イボ付の軍手でマグマに手を突っ込むくらい無謀ですよ！

A：安心しろ。ちゃんとマットの耳はしまつてある。

K：そんな懐かしい事の心配してねえよ！ここは巨大マットでしょ！？

A：安心しろ！体育用マットの5枚重ねだぞ！！

K：安心出来ません。

A：安心しろ！体育用マットを5枚重ねれば、もはやマットのミルフィーユと言っても過言ではない！

K：もはや、あんたはギネス級のバカと言っても過言ではないと思います。ミルフィーユである意味が解らないです。それが解るヤツが居たらそいつもギネス級のバカに違いありません。とにかく、もう安心できないので体育用から離れて下さい。

女：マットを5枚重ねた事をミルフィーユに例えるなんて、、なんて素晴らしいの！

K：ここにもギネス級のバカが居た！！

A：君にはわかるんだね！素晴らしいだろう！私の頭は！！

女：素敵！！

K：2人とも素晴らしく素敵なバカで、もうおめでとうございます。

A：とりあえず、今さっき下の連中に連絡してマットは増やしてもらっておいた。

K：まあ、これで飛び降りたとしても無事に助かりそうですね。

A：いや、でも最後まで気を抜いちゃダメだ。その君、観念してこっちに来なさい。

女：嫌よ、、こうなったら！

K：あつ、あの女性、最後の最後でナイフを取り出しましたよ！

A：まつ、まさか、あのナイフで、、

K：そうですね。

A：果物を剥く気だな。

K：そんな訳あるか！死のうとしてるんですよ。なんで死の直前で新鮮な果実をひとかじりなんですか。

女：ウサギのりんごはいかがですか？

K：食べるか！本当に果物剥いてやがった。

A：これ、美味しいな。

K：お前、食ってんのかよっ！確かに、ちょっと美味しそう。

女：じゃあ、後輩の刑事さんもどう？！

K：あ、じゃあ、いただきます。

女：はい。どうぞ。

K：これ、美味しそうだし可愛いですね。

A：そんな不用意に近寄っちゃダメだ！

女：りんごだけじゃなくてナイフもさしあげますね！

K：えっ、！うわあああっ！！

A：バカ！大丈夫か！？

K：なんじゃこりゃあああっ！！

A：ウサギのりんごだな。

K：そつちじゃねえよ！ナイフの方ですよ！

A：ああ、良いナイフだ。この特殊な形は西洋に伝わる、、

K：ナイフの形状もどうでも良いんですよ！僕の方ですよ！

A：ああ、手の横がちょっとだけ（数ミリ程度）切れてるな。

K：俺の傷その程度だったのか！！俺、もう殉職の勢いですっげえ騒いでたから恥ずかしいわ。

A：まあ、普通にナイフ受け取っただけだからな。

K：普通に渡されたナイフを受け取り損ねて、尚且つ刺されたと勘違いだなんて衝撃の事実だわ。

A：まあ、単純にウサギの形のりんごを作りたかっただけみたいだな。

K：そうでしたか。じゃあ、説得続けましょうか。

A：あのな、俺の好きな歌にこんな歌詞があるんだ。きっと今の君なら共感できると思う。

K：そう言うの女性には良いかも知れませんか。

A：「高く飛べ高く空へ！ 高く蹴れ高く声を上げ いつか挫けた
その日、、」「どうだ?! 生きる気になったか?!」

K：完璧にアウトです。「その日の向こうまでって」大事なトコ言
ってないし、それどこのリトバスですか。

女：私、今なら飛べそうな気がする！

K：ほらっ！やばい！ヤバイ！

A：「君の声忘れない 涙も忘れない」

女：ありがとう！私、飛つびまゝす！！

A & K：落ちたーっ！！

K：そんな、アムロみたく言わなくても！

女：きゃーっ！ああ、エクスタシーッ！！

K：なんで「エクスタシーッ！」？リトバスだけに？！

A：アーメン。

K：不謹慎な事言わないで下さい！

女：（ボフン。）あ、私、生きてる。

K：あつ！でも、マツトのおかげで助かりましたよー！！

A：さすがミルフィーユ。

K：まあ、結果オーライって事で。

A：普通に立ち上がって歩き出したな。

女：きゃっ。

K：あ、マットの横で転びましたよ。

A：あ、マットの耳しまい忘れてた。

K：本当に体育用マットだったのかい！！

A：まあ、命も助かった事だし、、お疲れさん！

K：あんまり腑に落ちないですけど、、お疲れ様でした！

A：じゃあ、ラーメンでも食べて帰るか？！おごってやるぞ。

K：ありがとうございます！

A：あ、でもラーメンってズルズルすすつてると汁が素肌に跳ねて熱いんだよな。

K：服を着ればいいでしょ！まあ、とにかく行きましょうよ。

A：そうだな、行くか。なあ、、、、そう言えばお前って彼女いるのか？

K：まあ、一応は居ますけど。

A：じゃあ、今度そのラブプラス貸してくれ。

K：俺の彼女までラブプラスにすんな。

【会話ネタ】飛び降り。【コント】（後書き）

この作品は短編で投稿したものに気付いてもらえない場合があるので、連載の方でも掲載させて頂きました。

長めのネタで読みにくい中、最後まで読んで頂きありがとうございます！！

3人での掛け合いのネタはチャレンジ精神でやってみました。

3人ネタはこれ以外ないのですが、評判が良ければ書いてみたいと思っております。何せ3人ネタは時間がかかるもので（笑）

これから先、また更新して行きますので宜しくお願い致します。

【会話ネタ】家での出来事【コント風】

A：まあ、狭いけど上がってくれよ。

K：おう、お邪魔します。

A：あ、先にお前に言うておくけどウチ「ドキン」だから。

K：土足禁止って当たり前でしょ。

A：いや、「ウチ（俺）、お前が好きでハートがドキン！」の略だから。

K：お邪魔しました。

A：ねえ、帰らないですよ。友達来るのお前が初めてなんだからさあ。

K：え。

A：だって俺の初めてはお前がいいんだからさあ。

K：さようなら。

A：ごめん。もう変な事言わないからさ。

K：、、、、しょうがないなあ。

A：あつ、安心して。約束する。家族は旅行で明後日まで帰って来

ないから。

K：永遠にさようなら。何を安心すればいいか何ひとつ解らない。
改めて、さようなら。

A：冗談だからさあ。

K：じゃあ、変なことすんなよ。

A：解った。約束する。じゃあ、部屋にどうぞ。

K：お、意外と綺麗だな。

A：そんな、綺麗だなんて、。

K：部屋な。部屋。

A：、、のど渴いたな。何か飲むか？

K：おお。気が利くねえ。

A：コーヒーと紅茶どっちがいい？

K：じゃあ、紅茶がいいな。

A：ごめん。ウチには紅茶置いてないんだよ。

K：じゃあ、聞くなよ。

A：コーヒーはブラックとミルクどっちが良い？

K：えつと、ミル、いやミルクがないと言われ兼ねないからブラックでいいわ。

A：、、、ちつ。

K：舌打ちすんな。確実にミルクなかったのが丸解りだろ。

A：じゃあ、「普通のブラックコーヒー」と「ブラックなコーヒー」どっちが良い？

K：「ブラックなコーヒー」ってなんか響きが嫌です。何よそれ。

A：入手ルートが危険だからブラック。

K：是が非でも、飲みたくないです。

A：、、、ちつ。

K：だから舌打ちをするな。ヤバかったの丸解りだから。もう、普通のお願いします。

A：じゃあ、普通のコーヒーな。

K：ずずつ、、。あ、本当に普通だ。

A：なあなあ、お前さ特技とか無いの？

K：いや、俺はないな。急に振ってきたけど、お前は特技あるの？

A：すごいのあるよ

K：なにになに??

A：超能力って訳じゃないんだけどさ

K：うん

A：両手を縛られて目隠しをされた状態で

K：おお！すごそうじゃん。

A：叩かれると

K：おおっ、

A：すごく気持ちいい。

K：ただの変態じゃねーかよ！それ超能力じゃなくて超変態能力だよね。

A：変態だと思うんなら、試しにそこに置いてあるムチで叩いてみるよ。

K：それじゃあ、、（ビシッ）↑叩く音

A：あゝ！すごく気持ちいい。

K：やっぱり変態じゃねーかよ。ってか、なんでこんなところにムチがあるんだよ？

A：あ、それ私物。

K：変態ケテーイだな。間違っ事なくお前は変態です。

A：痛みを変換すると言う事が、これが超能力なんです！変態じゃありません。

K：どう考えても変態でしょ！

A：変態はお前だ！この豚野郎めが！！

K：、、。

A：つて、言っして下さい。

K：極めたな変態道。

A：うわっ！銃撃が！！危ないから俺と一緒にベッドに潜って！！

K：え！？銃撃！？

A：いいから早く！！

K：、、解った！

A：ふゝ、落ち着いたみたいだ。

K：どうしたんだ？

A：いや、お前の俺への視線と言つ銃撃が俺のハートを打ち抜いて
ドキン!としたもんで。

K：気持ち悪いわ。この、変態!豚野郎めが!!

A：ああゝ、罵^{ののし}られるの、すごく気持ちいい。

K：永遠にさようなら。

【会話ネタ】家での出来事【コント風】（後書き）

星霧の作品としては短めとなっておりますが、現在投稿している他の作品が特別長い物で、大体はコレくらいの長さとなっております。ですので、コレ以降はこの作品くらいすぐに読み終わる作品を投稿していく予定です。

今回も最後まで読んで頂き、ありがとうございます！

これからも、よろしく願いいたします！！

【会話ネタ】交通事故。

K：最近、気になるニュースとかある？

A：NEWSですか？

K：いや綴り違うから。ジャニーズのじゃなくて普通のニュース。

A：あつたかなあ。

K：別に気になった事でも構わないですよ。

A：ありました。

K：どんなのですか？

A：最近は交通事故が多い。

K：まあ、最近に限った事じゃないですけどね。

A：最近、あつたんですよ。

K：そうなんですか？！

A：この前、お昼にお餅を食べていたんですね。

K：お餅、美味しくていいじゃないですか。

A：お餅を飲み込もうとしたら喉に詰まり、水を取りに行く途中で

車に跳ねられました。

K：お前、どこで飯食ってんだよ！キッチンに道路が通ってるところなんて早々ないぞ！ってか、有り得ないだろ。

A：な、な、なんと！跳ねられた衝撃で詰まっていた餅が！

K：取れるか、バカ野郎。

A：な、な、なんと！跳ねられた衝撃で！

K：頭がおかしくなったんだな。解ります。

A：まだあるんですけど、話してもいいですか？

K：じゃあ、それお願いします。

A：この前、交通量の多い道を歩いてたんですよ。

K：大きな道ってことですね。

A：そうしたら、道の向こう側の方で子供がボール遊びをしてたんです。

K：なんか、いかにもって感じですね。

A：もしかして、、と思ってたら、子供がボールを取り損ねてボールが道に出ちゃったんですよ。

K：それって危ないじゃないですか。

A：それで、子供が道路に飛び出したんです。

K：事故になっちゃうじゃないですか！

A：僕が「あぶな〜〜いつ〜！」って、思っただけなら車に跳ねられてました。

K：助けるよ！なんで思うだけなんだよ！

A：子供が人形みたいにボーン！って、あっはっはっは。

K：不謹慎極まりないわ。最悪だなお前は！

A：大丈夫です。子供はボールがクッションになって少しの擦り傷だけでしたから。

K：漫画みたいな話だな。

A：まだ、他にもありますよ。

K：気分の良いのを願います。

A：まあ、また交通量の多い道を歩いてたんですよ。そしたらまた、道の向こう側でボール遊びをしている子供が居たんです。

K：またまた、いかにもな展開ですね。

A：またもや子供がボールを取り損ねて、ボールが道に出ちゃったんですよ。

K：危険ですね！

A：僕は「あぶない！」と思って助けようと飛び出したんです！

K：カッコ良いじゃない！

A：そしたら、助ける前に対向車に僕が跳ねられました。

K：カッコ悪っ！

A：僕は、死にましえ〜ん！！

K：死んでれば良かったのに。息の根が止まれば良かったのに。

A：ちなみに子供はボールがクッションになって無傷でした。

K：お前、跳ねられ損じゃん。

A：ちなみに僕も股間のボールがクッションになって無傷でした。

K：下ネタかよ！（笑）

A：まあ、実は最後にもうひとつお話があるのです。

K：じゃあ、話せばいいんじゃない。

A：やり投げですね〜。

K：「投げやり」な。俺、ランスとか投げないから。

A：これも、交通事故の事なんですが、僕ん家のお風呂って道路に面していて、シャワー浴びてると窓から外の様子が良く見えるんですよ。

K：そうなんですか。

A：それで、この前シャワーを浴びていたら、これまた子供がボール遊びをしていたんです。

K：あゝ、またですか。

A：見てたら、案の定ボールが道の方に転がって行ったんです。

K：危ないじゃないですか！

A：そうです！だから僕は窓から飛び出して、子供を助けようとしたんです！

K：さすがですね！

A：そして、シャワー中だった僕は生まれたままの姿で、走りながらこっぴ叫んだんです！

K：何て？

A：あぶなあゝゝいつ！！

K：お前が危ないよ！！見知らぬ全裸の男が窓から飛び出して走って来たら車よりも怖いよ！

A：怖がらなくてもいいんだよっ！

K：無理言っな。恐怖以外の何者でもないわ。ところで、その子供は助けられたんですか？

A：もちろん、無傷で助けました。

K：目には見えない傷を心に負ったような気はするけどな。無傷、それは良かった。助けた子供はその後どうしたんですか？

A：ちょうど来た警察に無事、保護されました。

K：じゃあ、安心でしたね。

A：もちろん僕もその後すぐに、警察に保護されましたけどね。

K：やっぱりですか。

A：表彰されると思って警察署に行っただけですけどね。

K：そんなわけあるか。一生保護されてれば良かったのに。

【会話ネタ】交通事故。（後書き）

次のネタが出来るまで時間がかなり掛かりそうだったので、5年前に作ったネタをあんまりいじらずに載せてしまいました（>ω<;）

若干、下ネタがあるのは許して下さい^ - ^ ; なんせ変態の妄想目録ですから（笑）

【会話ネタ】昔話。

オススメ作品

A：あのさ、昔話って良いと思わない？

K：話題の振り方、急過ぎじゃね？スプラッシュマウンテンの最後の落下より急じゃね？確かに「かさ地蔵」とか「鶴の恩返し」とか良い話いっぱいあるもんな。

A：今日は、俺が考えた昔話を聞いて欲しいんだよ。

K：なんか、不安だけど。まあ良いよ。

A：本当か？！じゃあ、視聴料金5000円な。

K：じゃあな。一人で喋っててくれ。

A：ごめん。俺が悪かった。ちょっと高いよな。1000円でいいわ。

K：じゃあな。一人で喉が枯れても喋り続けてそのまま死んでくれ。

A：ごめん。無料でいいから！

K：当たり前だろ。

A：それじゃ、始めるぞ。

K：よろしく。

A：むかし、むかし、ある所におじいさんとおばあさんとおじいさんの愛人が住んでいました。

K：なにその修羅場スタートの昔話。子供に聞かせられないだろ。

A：おじいさんが回転ベッドを操作し、その上で待機していると

K：ストップ！ストップ！！！

A：おもむろに回転ベッドを止めるおじいさん。

K：そつちじゃねえよ！話を止める！昔話に回転ベッドとか出すなよ！ピンクなのはダメ！

A：ピンクの照明を通常の色に切り替えるおじいさん。

K：それでもねえよ！照明までもピンクでしたか！

A：テレッ♪テレッ♪テレッテレッテッテッテッ♪

K：それピンクパンサー！文字だと解りにくいし今時の子^{いまこ}わかるのか？！まあ、とにかく愛人は出さないで下さい。

A：しょうがないなあ。じゃあ、変えるよ。

K：お願いします。

A：むかし、むかし、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。

K：うんうん。

A：あと執事も住んでいました。

K：なぜ執事！？

A：あ、これ題名が『執事in昔ばなし』だから。

K：そんな題名だったのか。

A：朝食を作る執事。今朝はおじいさんの大好きな目玉焼きだ。

K：おじいさんシンプルな物が好きなのね。

A：執事は出来上がった目玉焼きを自分の両手の上に直接乗せおじいさんの前に優しく差し出す。

K：何で素手で差し出すんだよ！違っでしょ！

A：目玉焼きを軍手の上に乗せおじいさんの前に優しく差し出す。

K：皿の上に乗せろ！！軍手は作業用手袋でしょ？！

A：めんどくさそうに執事は

K：「めんどくさそうに」とか言っなよ！執事！

A：出来上がった目玉焼きを皿の上に乗せおじいさんの前に優しく、
放り投げる。

K：投げちゃった！置き執事！そこは優しく置き執事！！

A：優しく、地面に置く執事。

K：どこに置く！常識を考える執事！おじいさんは猫じゃない！！

A：それを美味しそうに食べるおじいさん。

K：食うのかよ！じじい！正気かじじい！！

A：おじいさんは叫んだ。「ワシは正気じゃ！！」

K：何で、俺と会話してんのよ！これ昔話でしょ！？

A：猫の様にお皿に顔を突っ込むおじいさん。

K：直接、顔面で行きましたか！

A：そこにやってきたおばあさん。

K：ここで、おばあさん登場か。

A：おじいさんを含めた台所での光景を見て驚く。

K：そりゃ、おじいさんが地面に置いた皿に顔面突っ込んでれば驚くわな。

A：あわてるおじいさん。そして、「何してるの？！」と、すぐさま割って入るおばあさん。

K：そりゃ、怒るだろ。

A：地面に這いつくばり、おじいさんに顔を近づけ叫ぶおばあさん。
「私にも食べさせなさい！！」

K：お前もかよ！！

A：「奥様の分もちゃんとありますから。慌てないで下さい」執事は出来上がった目玉焼きをおばあさんの顔の上に直接乗せました。

K：今度は顔面に直接乗つけやがった！

A：「まあ、熱々ね。」と、おばあさん。

K：ばばあ冷静だな！

A：顔面に乗せられつつも、冷静に完食するおばあさん。

K：すげーな。でも、顔面べちゃべちゃだろ。

A：これは大変だ！と慌てる執事。

K：どうしたんだ？

A：「奥様どうしたんですか！？お顔が汚れてるじゃありませんか！！」

K：犯人お前だよ！直接顔面に目玉焼き乗せられりゃべちゃべちゃだよな。

A：執事は憤慨する。「許さん！」

K：じゃあ、滝にでも打たれて来い。

A：「旦那様・奥様。私、滝に行つてまいります」

K：反省する気満々だな！やった自覚あるんじゃないかよ。

A：そんな中、おじいさんとおばあさんは口をそろえて言った。「ご馳走様。美味しかったですよ。」

K：あんなでもお礼言つんだ。

A：「いえいえ、こちらこそ面白かったですよ。」と執事。

K：絶対ご主人様たちをバカにしてんだろこの執事。

A：「この、クソじじいとクソばあは絶対いつか事故に見せかけてぶつ殺してやる！」

K：ひどい事言つな！この執事！

A：と、思う俺であつた。

K：思つてるのお前かつ！執事が良からぬ事考えてるのかと思つてビックリしたわ。

A：執事はそんな事は思いませんのでご安心下さい。

K：安心したわ。執事にはもちろん他にも仕事あるんだろ？

A：まだまだありますよ。

K：それじゃ、お願いします。

A：暖かい日差しが気持ちの良いある日の午後、外に置いてあるテーブルでおいしいさんは牛乳を、おばあさんは紅茶を飲んでいました。その横にはお茶菓子として執事お手製のクッキーが添えられていました。

K：昔とは思えないくらいエレガントな午後のひと時だな。

A：おじいさんはちょうど良い暖かさが気持ち良く、コクリコクリとうたた寝をしてしまいました。そのため持っていた牛乳をこぼしてしまいました。

K：まあ、しょうがないか。

A：おばあさんが気付き「おじいさん、牛乳をこぼしましたよ。」と告げ終えた時、すでに執事はぞうきんで牛乳をふき取っていた。

K：さすが執事。すげーな！

A：「旦那様。お口元にクッキーの食べカスが」そう言いながら、先程のぞうきんでおじいさんの口元を拭く執事。

K：牛乳拭いたぞうきんはダメだって！！

A：その後すぐ、おじいさんは全身の力が抜けたかの様に見え、無言で椅子につながれた。

K：失神してるっ！あまりの臭いに失神してるじゃん！！

A：不思議に思いながらも驚き叫ぶ執事。「旦那様！どうしました！？」

K：原因お前だよ！お前が口元に当てた『牛乳×ぞうきん』のコーラボレーションによるグレートな臭い^{にお}で失神してるんだよ！

A：気を取り戻したおじいさん。

K：結構早く戻ってきたな。

A：真面目な顔でおじいさんは言いました。「ここはどこ？私はだあれ？？」

K：記憶飛んでる！！記憶喪失のお約束のセリフじゃん！

A：おばあさんはニヤリとしてこう言いました。「ここは私の所有している家です。あなたは私の奴隷で全財産を譲るために今日ここに居るのですよ」

K：嘘を教えるな！この腹黒ばあには困ったもんだな。

A：執事は思い出したように言う。「こんな時は三回叩くと直ると聞きましたか？」

K：それ、テレビとかラジカセとかの電化製品の話！人間には適用外です。

A：それを聞いたおばあさんは思いつきおじいさんを三回叩く事にしました。

K：「思いつき」は余計じゃない？

A：掛け声と共におじいさんをぶつ叩くおばあさん。「いっぱゝ目！にはあゝつ目！ トドメだ！さあんぱゝつ目えっ！！ ああゝ！楽しいねえ！！」

K：途中で『トドメ』やら最後『楽しい』とか言っちゃってますけど！で、おじいさんは叩いた事で直ったのか？！

A：その後すぐ、おじいさんは全身の力が抜けたかのように見え、無言で椅子にうなだれた。

K：また、失神してる！強く叩きすぎだよ！！『牛乳×ぞうきん』の時と同じ反応起こしちゃってるじゃんかよ！

A：少し経って、気を取り戻したおじいさん。

K：目覚めて良かった。

A：「ちつ。生きてたか。」とおばあさん。

K：やっぱり殺す気満々だったのか！相変わらずひどいおばあさんだな。

A：目覚めたおじいさんが何かに気付き指をさした。「あの畑の方にいる、包丁持った人は誰じゃ？」

K：ん？

A：畑の方には包丁を持って手ぬぐいで口元を隠し顔がバレないようにした男が立っていた。

K：もう、明らかに不審者だな。

A：おじいさんと、おばあさんの元に突然現れ近づいて来た不審者。

K：もしかして…。

A：おじいさんは不審者に強く言い放つ。「ヤクルトなら間に合ってますよ！」

K：ヤクルトの人なハズあるか！！基本は「ヤクルトレディ」ですから！

A：不審者は包丁をちらつかせながら言った。「解ってるだろ？出せよ！死にたいのか？！」

K：こりゃ、強盗ってやつだな。

A：おばあさんは惜しみながら、仕方なく出す事にしました。

K：あの、お金に汚いおばあさんが！

A：「ほれ！ワシの入れ歯じゃ。」

K：それじゃねえよ！

A：「お前、バカにしてんのか?! こんなもんより高価なのがあるだろ!! 出せ!!」 怒り始める強盗。

K：そりゃ怒るわ。

A：「奥様。私にお任せ下さい。」と、奥から出てくる執事。

K：お、執事出てきた!

A：「何だ? お前。お前がもつと高価な物を出すつてのか?」「さようでございます。」あくまでも紳士に対応する執事。

K：さすがだな!

A：「こちら先程、奥様が出したものより高価な入れ歯になります。」

K：バカか! 入れ歯離れるよ!! 強盗はもつと世間的に価値のあるものを出せつて言ってるんだよ。

A：「高価な物つて言ったら現金や金とか銀だ!!」 声を荒げる強盗。

K：普通は説明しなくても解るものなだけだね。

A：「いい加減に出さないと一人ずつ殺して行くからな!」 次第に興奮する強盗。

K：そりゃ、お怒りMAXで興奮もするわな。

A：強盗につられて激しく興奮するおじいさん。

K：何でだよ！

A：「なんだか思春期を思い出すわい！！」

K：変態かよ！！

A：「ふざけてないで、早く金を出せ！！」叫ぶ強盗。

K：そりゃ、そうなるよな。

A：「ワシはふざけてなんておらん！本気で興奮してるんじゃ！！」

K：もういいよ！その興奮ネタは！！

A：「もう待てないぞ。早く出せ。出さなきゃそっちのばあさんから殺す。」

K：ついに、殺す予告までして来たか。

A：おじいさんは仕方ないという表情を浮かべ、口を開いた。「いくら欲しいんだ？！100万か？10万か？それとも1000円か？」

K：なんで値下げしていくんだよ。普通は増やすでしょ？！

A：「ピピーツ！ピピーツ！！」何かの警告音の様な音が鳴り響く。

K：なんだ？執事が通報でもしたのか？

A：すごい勢いで問い詰める強盗。「その執事何をした！通報したのか？！答える！！」

K：強盗からしたら死活問題だからな。

A：「うるさい！少し黙っているおっ！！」とてつもなく険しい表情で殺気を発しながら叫ぶ執事。その実、獅子の類。あまりの迫力に怯む強盗。おじいさんもおばあさんもこんな執事を見たことがなくて驚いていました。そして、両手で何かを操作する執事。

K：執事どうした！

A：続けて言う執事。「たまごつちのご飯の時間なんですよっ！！」

K：たまごつちかよ！今時たまごつちですか？！ってか、相変わらず時代無視じゃね？！

A：「ご飯の時間は大事なんです！！」たまごつちに関して力説する執事。

K：そんな真剣にならなくても、ゝゝ。

A：さっきまで静かだった強盗は思い出したかのように叫びました。「そんなもんで中断させやがったのか！」

K：確かにそうだな。

A：「そんなもん…だと？」

K：執事怒った！

A：怒った執事は目にも止まらぬ速さで強盗の後ろに回りこみました。「何！？」驚く強盗。

K：執事、戦闘能力もすげえじゃん！

A：そして、執事は左腕を使い強盗の腕ごと身体を押さえつける形で拘束し、空いた右手で何かの液体の染み込んだ布で強盗の口元を押さえた。

K：なんかこんな光景^{シーン}TVで見たことある！

A：その後すぐ、強盗は全身の力が抜けたかの様に見え、無言で執事の腕の中でうなだれた。

K：もしや、『クロロホルム』か？！

A：「そんな薬品の染み込んだ布をいつの間に用意したんじゃ？」
驚くおじいさんとおばあさん。それに返答する執事。

K：普通、急には用意出来ないよな。

A：「あ、これはさっき牛乳を拭いたぞうきんですよ。」

K：さっきのか！！さっきテーブルの牛乳を拭いておじいさんを失神させたぞうきんか！！だから同じ様に失神したんだな！

A：少し経って、気を取り戻す強盗。

K：つて事はさつきと同じ症状で目覚めるわけか。

A：真面目な顔で強盗は言いました。「ここはどこ？私はだあれ？」

K：やっぱり記憶飛んでる！！只今、絶賛記憶喪失中でございます！！

A：おばあさんは、またもニヤリとしてこう言いました。「ここは私達の所有している家です。あなたは私たちからお金を借りて返済するために、今日ここに居るのですよ。だから財布の中身は全部置いて行きなさい。」

K：出た！おばあさんの腹黒っぷり！

A：「そうでしたか。それでは、これをお納め下さい。」そう言いながら財布を差し出す強盗。

K：すごいな。

A：「それでは、失礼します。」そう言い残し強盗は帰って行きました。

K：強盗から金奪うってニュースになりそうだな。

A：「ちつ。これしか金入ってないのかよ！強盗もしようとするし本当に人間の力スだな！！」

K：執事、そんな腹黒かったっけ？

A：と、思う俺。

K：また、お前か！！それにしても執事はすげえな。俺も雇いたい
わ。

A：じゃあ、次のお話行きましょうか。

K：お願いします。

A：ある天気の良い日。「今日は天気も良いしピクニックにでも行
こう！」おじいさんは急に思いつき言い出しました。「良いですね」
と、賛成するおばあさん。

K：昔話のくせにピクニック言っな。山登りって言いなさい。

A：おじいさん、おばあさん、そして執事の三人は近所の山に出か
けました。

K：無事に帰って来れると良いな。

A：山を登っている途中、道端には綺麗な花が咲いていました。

K：綺麗な花を見るのも、山登りの醍醐味のひとつだね。

A：「綺麗ですね。タンポポにコスモスに沢山のお花たち。」と、
おばあさんは微笑みながら言いました。

K：おばあさんでもやっぱり女の子なんだね。

A：「旦那様・奥様。今日、私^{わたくし}めは押し花用に厚い本を持ってきて

おります。押し花にして持って帰ってはいかがでしょうか？」

K：執事、ナイスアイディアな上に準備良いな。

A：「じゃあ、この花をお願いしようかの」と、おじいさん。

K：お、コスモスか。綺麗だよな。

A：「あつ、これも一緒をお願いしたいのう。」とおばあさん。

K：おばあさんは何の花かな？

A：そう言いながら『カマキリ』を差し出すおばあさん。

K：無理だろ！これ花じゃないじゃん！

A：困った表情の執事におばあさんはこう言った。「何事にもチャレンジじゃよ！！」

K：無理だよ！何その無駄で無謀なチャレンジ精神！？絶対「グチャ」ってなって、変な色の液体出てくるって！

A：「何色の液体じゃろうか？！」興味深々なおばあさん。

K：いやーいやーいやー挟はさもうとしちゃダメだって！！

A：執事はこう答える。「かしこまりました。」

K：承うけたまわるな！断れ！！

A：その後、おばあさんのお願いをやんわりと断る執事。「えっ！じゃあ、これはどうかのう？！」と今度はおじいさんが尋ねる。

K：今度は何だ？

A：おじいさんは執事に差し出しました。四葉のクローバー

K：なら、出来るでしょ。

A：に似てる『カマキリ』を。

K：またか！再度、カマキリか！カマキリアゲインか！ってか、よく擬態してるカマキリ見つけたな！

A：今度はおばあさんが執事の元に来て言いました。この、可愛らしいタンポポ

K：なら大丈夫だな。

A：に、似てる

K：また擬態してるカマキリじゃないだろうな？！

A：『カマ・キリー。』

K：やっぱりカマキリじゃねえかよ！無理矢理「ジム・キャリー」みたいな外人風に言うな！この夫婦カマキリ好きすぎる！もう、みんなこの二人を『カマキリスト』って呼んであげて！！

A：そんなやり取りをしながらも楽しく山を登って行く三人。そし

て山の中腹を過ぎたあたりまで来た頃。

K：結構登ったんだね。

A：「疲れましたねえ。」「そうですね。」「結構な距離を歩いたので年老いた二人は疲れ始めていたようだ。」

K：確かに、この二人に山登りはこたえるよな。

A：「それでは、この辺で一休み致しましょう。山を登っていたら小腹が減った頃に何か食べたくなると思っています。今日は、こちらの二品の料理を作ってまいりました。」

K：気が利くね。優秀な執事だわ。

A：「この黄色いのは？」尋ねるおじいさんとおばあさん。

K：彩りいろりも大事だよな。

A：「こちらは汗をかいて塩分が不足すると思ひまして。塩味の卵焼きでございます。」

K：体調にまで気を使うなんてスゲーな。

A：「あら、美味しい。」「声を揃える二人。すぐに卵焼きの入っていた容器は空っぽになってしまいました。」

K：気遣いのおかげで更に美味しく感じたんだろうな、きっと。

A：「こちらは、今日の自信作でございます。」「と執事は自信に満

ちた表情で二人の前に差し出しました。

A：「この黒い豆みたいなのは何だい？」不思議そうに尋ねるおじいさんとおばあさん。

K：なんだ？大粒の黒豆か？

A：調理の際の苦勞を言う執事。「時間かけて煮込まないと、やわらかくならないので大変でした。」

K：この正体は何？

A：「こちら『カブトムシ』でございます。」

K：食えねえよ！柔らかくならねえよ！たくましいツノが刺さっちゃうよ！！

A：「メスですのでツノは大丈夫でございます。」と冷静に言う執事。

K：ツノ云々（うんぬん）の前に、カブトムシが大丈夫じゃないんだよ！

A：全てをあつという間にたいらげるおじいさんとおばあさん。

K：食った！食っちゃったよ！！残さず綺麗に食べちゃいましたか！！

A：そして、何だかんだで頂上に着く三人。

K：やっと、着いたか。

A：「山の頂上で思った事を叫ぶと、とても気持ちが良いものですよ」と二人に言う執事。

K：ヤッホー！とか良いよね。

A：おじいさん、おばあさんの順で叫びました。「お金が欲しい」！」「私はその倍のお金が欲しい」！」

K：ヤッホー！じゃないの！？と言うか、おばあさん強欲過ぎてびっくりです。

A：続いて執事が叫びました。「今日の夕飯は何にしようかな」！！？」

K：執事、本当に切実に思っている事を叫んだな。

A：その後、おじいさんとおばあさんに尋ねる執事。「そう言えば、お金といえば私のお給料はいつ頃に頂けるのでしょうか？もう、半年経ちますけれど」

K：半年も無給かよ！確かにこれは明確しなきゃいけない問題だな。

A：おじいさんとおばあさんは「気付いたな、コイツ」とアイコンタクトをしました。

K：そりゃ、半年も無給なら気付くわ！

A：給料を払いたくないおじいさんとおばあさんは、執事を頂上の

崖から突き落として殺してしまおうと考えました。

K：腹黒いじじいとばあだな！！

A：「それにしても、頂上は空気が美味しいですね。あ、今夜の夕食のご希望はございますか？なければ、私の方で食材を見て決めてしまいますが。」

K：夕飯のメニューどころじゃないって！危ないよ、執事！

A：「死ね！」「死になさい！」そう言い放ち、執事を両脇から同時に突き落とそうとする二人。

K：執事、大ピンチッ！！

A：その時、執事を残しガケが崩れる。執事を中心に右と左に別れそれぞれ落ちていくおじいさんとおばあさん。

K：自業自得の展開だな。

A：それぞれが執事に命を助けるように命じる。

K：命懸かってるもんな。

A：おじいさんが叫びました。「私を先に助ける！100円あげるから！」

K：ケチいな！自分の命懸かってるのにすつげーケチくさいな！

A：おばあさんも負けずに叫びます。「私を先に助けてくれたら、

そつね！おじいさんの5倍のお金を出すわ！！」

K：それでも500円ですけど！どんだけケチな夫婦だよ！！

A：年老いた二人の体力はすぐに限界に来てしまう。時間的に執事にはどちらか一人しか助けられない。悩む執事。

K：どうするんだ！？執事！

A：「私、決めました。」決意を固める執事。

K：どっちだ！？

A：「夕飯は目玉焼きにしましょう。」

K：夕飯の事か！どっちを助けるか決めたんじゃないの？！

A：「朝食を作る時に小さな器に割って見た、新鮮な卵の卵黄で思い出したんですよ。」

K：この二人を助けるのとは関係ないでしょ！？

A：執事は笑いながら、こう言いました。「良い気味（黄身）です。」

K：上手い事言っな。

A：「しかし、その小さな器はひどく汚れて居たので良い黄身だったんですが、捨ててしまいました。ちなみにその卵は二黄卵に黄身でした。」

K：それ、何か関係あるの？！

A：「ですので、人として器うつわが小さなひどく汚れた二人は良い気味なので卵と同じで捨てる事に決めました。」

K：上手い事を言おうとしてる若干の無理矢理感是否めないな。

A：もう、自分は何があっても無理だろうと思ったおじいさんとおばさんは「私は、もうダメだから、あの人だけでも…」と二人は執事を中心に離れて崖に居るのにも関わらず同じ事を言いました。

K：実は、お互いを思いやってたのか？！

A：その時、執事はどこからともなくロープを二本取り出し、おじいさんとおばあさんの方に投げ垂らしたのでした。

K：あれ？！捨てるんじゃないの！？

A：「器はひどく汚れておりましたが、この2つの黄身キミ(君)たちは奇跡的にも綺麗でしたから再利用出来ると思いましたので。」執事はそう言いながら二人を崖から引き上げ始めました。

K：なんかカツコイイな！執事！

A：二人を引き上げ終わる寸前に、「ピピーッ！ピピーッ！…」何かの警告音が鳴る！

K：最後に何か大事件か！？

A：二本のロープを放し、両手でおもむろに何かを操作する執事。

K：どうした！？

A：「あ！たまごつちに早くご飯あげなくてはなりませんっ！！」

K：たまごつちかよ！！ロープ放しちゃダメでしょ！大ケガしちゃうって！

A：執事は慌てずにこう言いました。「大丈夫ですよ。このネタと一緒に落ち『オチ』はたいした事ないですから」

K：お約束のオチだな。

A：その時、下からおじいさんとおばあさんの悲鳴が。「ぐわああっ！痛いいいいっ！！何か臓器的な物があああっ！」

K：……。

A：「ねっ！大した事ないでしょ？」

K：大した事あるわ！！

A：執事は、笑いながら言いました。

K：笑いながら言うな！！

A：「ねっ！大した事ないでしょ？」執事は真剣な顔で言いました。

K：真剣でもダメ！！

【会話ネタ】昔話

オススメ作品（後書き）

最後まで読んで頂き、誠にありがとうございます！！

若干Kの突っ込みが流れを邪魔するところがありますね^-^;;
精進します。

なんて言うか、もっと短い作品の予定だったんですがなんか長くなりました（・ω・;）（笑）

通常の会話ネタだと状況説明が出来ないから大変だと思っていたんですが、状況説明が書けてしまう環境のネタだったので会話ネタが
いかに楽か思い知らされました。

マジで小説やラノベ書いてる人、尊敬します！ってか、神だろ！w
w

文章と間の関係上、脆弱な状況説明・文章ですがお許し下さい（T
ωT）

間を気にしなければもう少しマシなのは書けると思うんですが、星
霧は笑いが第一なので（笑）

まだまだ練る場所もあるんですが、もう気力ないのでこれでひとま
ず完成です！（笑）

これからしばらくはM-1のネタ作りに入りますので更新が出来な
くなりそうなのですが、時間を見て新作を作ってUP出来るように
頑張ります！！

これからも、星霧圭をよろしくお願い致します！！

【会話ネタ】七夕。（前書き）

突然思い立って、季節に合わせて数日で作ってしまったので只でさえ普段から低いクオリティが他の作品よりも更に低いのは多目に見てあげてください。。。（ノω、）。。。

これが星霧の全力ではありませんので他の作品もお願い致します！
長いですが、「飛び降り」「昔話」がオススメです！
宜しくお願いします！

「会話ネタ」七夕。

A：バカ！アホ！マヌケ！この社会のごみクズ！

K：・・・何？いきなりどうした？

A：お前のあだ名どれがいい？

K：もつとマシなのねえの！？ってかその中から選ぶの決定事項ですか？！究極の選択以上の選択だわ！

A：いやあゝ。しっかし暑いな。そう思わないか？なあ、「社会のごみくず」よ。

K：俺が選ぶ以前に嫌なアダ名お前が決めやがったな。まあ、最近 は確かに暑くなって来始めたな。

A：もう、7月だもんな。

K：7月の7日と言ったら？！

A：ラッキーセブンの日？

K：なんだそれは。どこのパチンコ屋のイベント日だよ！初耳にも程があるぞ。

A：じゃあ、花火大会？

K：確かに場所によってはありそうだけどな。天の川のやつだよ。

A：あ、「七夕」ね。

K：正解。珍しくボケ少なめだな。

A：作者（星霧）が暑くてボケいっぱい書くの面倒なんだってさ。

K：言うなよ！最近、M-1のネタの方が不調でストレスで大変なんだから許してあげて。

A：七夕って言ったら「折り 姫」と「HIKO BOSHII」が1年に1度だけ「天の川」で会える日なんだよな。

K：なんだその表記は。「折り 姫」ってなんか「必ず対戦相手を骨折させるプロレスラー」の異名みたいになってるし彦星は横文字でカッコ良くなり過ぎ。しかも彦星に関しては「」が2つで「ひこぼしぼし」になっちゃってるからな。

A：え〜。カッコ良いと思ったのになあ。

K：無理やりカッコ良くしないでいいです。

A：七夕っていったら40代おっさん風のサラリーマンの「彦星」と、まだ年の端のいかない大人になりかけの少女「織姫」が1度だけの関係を「HOTEL 天の川」で金銭交渉により果たす日なんだよな。

K：どこの援助交際の話だ！ 美しい神話を台無しにするな！

A：七夕だけに「7万7千円はどう？」

K：話続けしないで下さい！

A：じゃあ、七夕って好青年「彦星」と少女「織姫」が1年に1度だけ「天の川」で会える日なんだよな。

K：まあ…百歩譲って良しとしますか。

A：七夕って他にも何かあったっけ？

K：あとは、短冊にお願い事書いたりするんだよ。

A：「7万7千円じゃなくて7万円になりますように。by彦星」

K：さっきの援助交際の彦星かよ！しかも、微妙な値引き交渉だな！

A：「来年からは皆から「HIKO BOSHII」って呼ばれるようになりますように。by彦星」

K：彦星その名前で呼ばれたかったの？！

A：「織姫より可愛い娘と付き合いたくいつ！！」

K：彦星そんなこと言っちゃダメだろ！

A：「by俺。」

K：お前か！お前のリアルな願望か！！もう短冊は良いから七夕の夜の話してくれよ。

A：そうか。まだまだ俺の願い事はあつただけどなあ。

K：どうせ、「織姫とは言いませんが、可愛い女と付き合いたいです。」とかだろ。

A：違うわ！「織姫とは言いませんが、可愛い『少女』と付き合いたいです。」だよ。

K：リアルに捕まるよ？！

A：誰か〜！俺の心を捕まえてくれ〜！！

K：おまわりさん。こっちです。

A：前言撤回！！この世の女性達よ！俺の心を捕まえてくれ〜！！

K：婦警さん。こっちです。

A：ごめんごめん。もうふざけた事言わないから警察の御介入は止めて頂きたい。

K：そうか。じゃあ、七夕の夜の話をお願いします。

A：7月7日。晴れた夜に天の川に橋がかかる。

K：おお、いい感じですね。

A：二人が会う事が出来るのは「1年に1度、晴れた日にだけ天の川で」。そのため、毎年必ず会えると言う訳ではないのだ。しかし、今年は天気に恵まれた。厳しい条件の中ととう会える事が出来た二

人は抱き合っ。

K：良い話ですねえ。

A：好青年な「彦星」に、幼女「織姫」。

K：さっきの設定で出て来るんですか！？

A：幼女「織姫」は「会えて良かった。」そうつぶやく。

K：幼女設定で続行ですか？！

A：そして抱き合い続ける二人。ある液体が織姫の顔を伝い流れていく。

K：1年振りだから泣く程に嬉しくてしょうがないんだろうな。

A：それは、紛れも無く「彦星」のよだれだった。

K：おい！彦星変態かよ！どこが好青年だ！

A：「彦星」は「幼女なあゝう！」そうつぶやいた…ツイッターで。

K：彦星最悪だな！変態ツイートしやがって。

A：「彦星」は「通報は止めて下さい。」と、つぶやいた…再度ツイッターで。

K：変な事つぶやくから通報されるんだよ！

A：「織姫」は「あなたと居られるのが幸せ。」と、つぶやいた…
ツイッターで。

K：織姫もツイッター始めちゃった!!

A：そして、抱き合う二人を祝福するかのようにどこかの花火大会
が始まる。「ひゅー、どーん!」

K：ロマンチックじゃないですか。

A：「熱いつ!」熱がる二人。

K：なんで花火が当たるんだよ! 何故そこは現実世界と区別され
てないんだよ!

A：特に彦星はズボンを履いてなかったので下半身を火傷をしてし
まいました。

K：履いとけよ! ロマンチックなシーンだと思ったらエロチックな
シーンで感動した自分がバカみたいだよ!

A：「この後、HOTEL天の川で織姫相手に大きな花火を打ち上
げる予定だったのに!」

K：完全なる下ネタ禁止!!

A：「これから少女と……なあーう!」

K：変態ツイート止めて下さい! ああ……。なんか七夕の話が台無し
になっちゃったじゃんかよ。

A：じゃあ、このあと「キャバクラ 天の川」にでも行くか！七夕だけに。

K：行かないよ！もう家に帰るわ！

A：と、Kはつぶやいた…ツイッターで。

K：俺までツイッターかよ！

A：七夕をちゃんと知らずに楽しめない奴は負け組みだぞ。

K：あ、ちなみに彦星と織姫って夫婦だからな。

A：えっ！！？

K：夫婦になって楽しくて仕事しなくて引き離されたんだよ。

A：ええっ！！？

K：結構、みんな恋人同士だと思ってるからな。

A：助かったよ！危なく、キャバクラで恋人同士の設定で話するところだったわ。

K：本当にキャバクラ行くつもりだったのかよ！

A：安心しろ！ちゃんと「織姫ちゃん」指名してくるから！！

K：気を使って無理やりオチ付けなくていいよ！！

A：じゃ、行ってくるわ！

K：もう二度と帰って来なくていいぞ。

A & K：それでは、皆様よい七夕を…。

A：と、ツイッターでつぶやく俺たち二人。

K：もう、ツイッターはいいよ！！

【会話ネタ】七夕。（後書き）

最後まで読んで頂き誠にありがとうございます！

そして、星霧の作品に時間を割いて頂き誠にありがとうございます！！

今度のイベント的なネタはもう少し本格的な作品を作りたいと思っていますので、今回の作品に懲りずにこれからも宜しくお願い致します！！

「会話ネタ」ラノベ風漫才。（前書き）

M-1グランプリの関係でしばらく投稿しておりませんでした。
久々の作品です。楽しんで頂けたら嬉しいです！

今回「K」の名前が出てますが気にしないで下さい（笑）
それでは、宜しくお願い致します！！

【会話ネタ】ラノベ風漫才。

A：あのさ。ラノベ（ライトノベル）って良いと思わない？

K：話題の振り方、急過ぎじゃね？ルパンの映画で敵側に付いていたけど最後にルパンに手の平返す峰不二子の態度くらい急じゃね？まあ、確かに「ゼロの使い魔」に「バカとテストと召喚獣」や「生徒会ばーさす！」とか面白い小説がいっぱいあるもんな。

A：「生徒会ばーさす！」は挿絵と表紙がお前の好きな絵師だから買っただけだろ。

K：買った動機は否定しないけど、内容も面白いよ。

A：まあそれは良いとして。今日は、俺が考えたラノベを聞いて欲しいんだよ。

K：どうせ適当に考えたんだろ。

A：真剣に考えたよ！だから、真剣に布団の中で目をつぶりながら聞いてくれよ！

K：どつちだよ！真剣に聞いて欲しいのか寝ながら聞いて欲しいのか解らねえよ！

A：じゃあ、布団の中の方で。

K：そつちでいいのか？！

A：じゃあ、その布団に入って聞いてくれ。

K：用意良いな。あゝ、布団気持ちいいな。

A：よし！じゃあ、始めるぞ。

K：宜しく。

A：じゃ、お邪魔します。

K：うおっ！入ってくるな！なんで一緒に布団に入ってくるんだよ！

A：「カンカンカン！」漫画のようなフライパ…

K：読み始めるな！俺と一緒に布団の中に入ったままの密着度120%で読み始めるな！！

A：俺とけいすけの肌が触れ合う。そして、二人は無言のまま唇を交じ合わせ…

K：やめろ！今すぐやめろ！！

A：二人は唇を交じ合わせるのをやめ、お互いの大事な所に手を伸ばす。

K：そつちじゃねえよ！やめるのそつちじゃねえよ！！しかも、行為がエスカレートしてますけど！！なんかB L風な内容になってますけど！！勝手に俺とお前の二人だけの秘密を作るのはやめてくれ！！

A：ちえっ。

K：舌打ちするな！始め方はちゃんとしたラノベっぽかったのに何でBL風なのが始まっちゃうんだよ！

A：お前。…けっこう胸板厚いんだな。

K：俺の胸板を触るんじゃない！つか、お前まだ布団の中に居るのかよ！いい加減に布団から出る！！

A：FU・TON・か・ら・出・ろ！！

K：真似するな！！しかも無意味に英字にしゃがって。ム力つくわ！もうラノベ聞いてやんない！お前が謝るまで布団で寝させてもらうからな！

A：……俺もっ！

K：お前は出る！今すぐ出る！早急に出ろ！！

A：けいすけは事が終わると、冷たく俺を布団から放り出した。

K：やめろ気持ち悪い！そのBL風なのはもうやめなさい！！

A：じゃあ、布団から出て真面目に読むから聞いて下さい！お願いします。

K：そこまで言うなら聞くよ。

A：じゃあ、その前に服着るね。

K：な・ん・でハダ力なんだよおおおっ！！

A：あれ？これお前の下着じゃね？

K：な・ん・で・俺までハダ力なんだよおおおっ！！

A：「カンカンカン！」漫画のようなフライパ…

K：何か言えええっ！！俺とお前の間に何があったああーっ！！

A：言ってるいいの？

K：やっぱり言うなああ！！

A：…可愛かったよ。

K：やめてえええええ！！何が可愛いんだああ！！

A：「カンカンカン！」漫画のようなフライパ…

K：読み始めたああああ！！

A：お前、さっきからうるさい。

K：正論言われた！！悔しい！けど、正論だから言い返せない！！

A：じゃあ、読み始めるぞ。

K：…はい。宜しくお願いします。

A：「カンカンカン！」漫画の様なフライパンをお玉で叩く音が、けたたましく家中に鳴り響く。

K：なんか、まともな感じで始まったな。

A：そんな母親の朝の合図で彼の朝はここから始まる。重い目蓋を開き、まだまだ眠い目をこすってベッドからむくり、と起き上がる。

K：まともだ。

A：彼の名前は^{けいすけ}渋谷圭佑。

K：いやいやいや！俺を出すな。ビックリするだろ！

A：ダメ？

K：どうせ変な目に遭うんだろ。

A：悪いようにはしない。

K：いやいやいや！ちゃんと否定してくれよ。

A：頼むわ。悪いようにはしなから。

K：しょうがないなあ。まあ、いちおう苗字は母親の旧姓だからプライバシー的にはOKとしますか…。

A：じゃあ、続行な。彼の名前は渋谷圭佑。今のところただの変哲のない高校二年生の十七歳だ。そう、今のところは。

K：おお、これは伏線だな。

A：部屋に入ってきた母親にお玉で頭を小突かれる。そして、その刺激により圭佑は覚醒した。

K：お！何かに目覚めたりするのか？！！

A：圭佑はベッドから飛び起き、すぐさま四つんばいになり叫ぶ。
「ああ！お母様！そのお玉でもっと強くぶって下さいまし！！力いっばいそのお玉で今度はお尻をぶって下さいまし！！」

K：変態か！何に目覚めてんだよ！これじゃ目覚め違いだろ！しかも、言葉使いが微妙に昔っばいし！SMに目覚めるなんて早速変な目にあっただじゃんかよ！

A：そして、力いっばい圭佑のお尻をお玉で叩く母親。

K：本当に叩くな！そんなお願いは聞かなくていいから！！

A：「痛い！痛い！けど…気持ち良い！！」圭佑は自然に声を上げていた。

K：言うか！！

A：「早く着替えてキッチンに来なさいね」と、圭佑のお尻を叩きながら母親は言う。

K：母親まだ尻叩いてんのかよ！

A：パジャマから制服に着替え終わった圭佑はつぶやく。「今日の朝食はなんだろう？」

K：まあ、大事な事だわな。

A：「朝食はトーストよ。」引き続き圭佑のお尻を叩きながら母親が答える。

K：いつまで叩いてんだよ！！

A：「痛い！痛い！！」けど気持ち良い！！」圭佑は無意識に声を：

K：だから言わねえって！！

A：視界の端に八時を過ぎた時計を見て圭佑は驚く。母親がお玉を振り回している部屋を飛び出し階段を駆け降りキッチンへ。

K：遅刻しそうなんだな。

A：テーブルの上には、昼食用のお弁当とこんがりと焼き目の付いたトーストとケチャップのかけられたスクランブルエッグがあった。

K：朝食らしいな。

A：「忙しいからって、お弁当は忘れちゃダメよ」と食器をじゃぶじゃぶ洗いながら言う母親。

K：早くね?!母親の移動早くね?!部屋に残して出てきたのに何でもうキッチンに居るの!?

A：圭佑に朝食をテーブルで呑気に食べている時間はない。朝食は登校しながら食べることにした。

K：良くある展開だな。

A：駆け足で玄関に向かい、急いで靴を履き玄関を後にする。圭佑の口には朝食のスクランブルエッグがくわえられていた。べちゃつとしたスクランブルエッグが。

K：トーストをくわえろ!なんで食べにくい方をチョイスしちゃうの!?

A：ケチャップで「LOVE」って書いてあったからしょうがない。

K：どこのメイドカフェだ!?母親に朝っぱらから「LOVE」って書かれても気持ち悪いわ!!トーストにしないさい。

A：しょうがないなあ。駆け足で玄関に向かい、急いで靴を履き玄関を後にする。圭佑の口には朝食のトーストがくわえられていた。

K：それっぽくなつたじゃん。

A：そのトーストにはジャムで「LOVE」の文字が…

K：書かれてません!!その「LOVE」はもうやめなさい!!

A：「まさか、漫画みたいにトーストをくわえてリアルに登校するなんて思っても見なかった」そう思いながら、駆け足で学校を目指す。

今日は新学期。そして二年生になって初めての登校。

「一年の時は彼女出来なかったから、二年こそは！」
走りながら気合を入れる圭佑。

K：すげえ。こんなけ喋ってボケがひとつもなかった！

A：少し走ると曲がり角に差し掛かる。

「まさか、こんなところで転校生の女子とかにぶつかったりして運命の出会いがあったりして」

ろくでもない妄想しながら、ろくに注意も減速もせずに曲がり角を曲がる。そして出会い頭に誰かと激しくぶつかる！！

K：おおっ！これは運命の相手との出会いか！？

A：少しよろけたものの、圭佑は運命の相手と思われる人に反射的にこう聞いていた。

「大丈夫！？」

「大丈夫よ。それよりお弁当忘れちゃダメじゃない！」
母親が弁当を差し出す。

K：母かよ！！まあ、俺を産んだからには違う意味で運命の人である事は間違いないけども！ってか、お弁当届けようとして後から俺を追いかけて来た母に曲がり角でぶつかるのっておかしくないか？
！

A：弁当はしっかり持って、そんな疑問はここに置いて行く事にし

た。

K：上手い事言ったつもりだろうけど、そんなでもないからな。

A：母にお礼を言い弁当を受け取り、再度学校目指す。

「やつぱり、運命の出会いなんてないよなあ……」

圭佑は改めて現実を痛感しながら走り出す。

K：まあ、運命の出会いなんてそんな簡単にあるものじゃないからな。

A：しばらくして、曲がり角に差し掛かる。

「また、母親居ないだろうなあ。もしくは今度は父親じゃ……」

などと色々考えつつ急いで曲がり角を曲がる。

またもや出会い頭に接触。しかも、先程よりも激しくぶつかる。

そして、すっ飛ぶ圭佑。

今度は知らない女性。

K：急展開か！？

A：圭佑は運命の相手と思われる女性に心配そうに聞かれた。

「君、大丈夫？！」

「あ、僕は軽く膝をすりむいた位ですから全然大丈夫ですよ。お姉さんは大丈夫ですか？」

「私の自動車の方はフロントバンパーが壊れたくらいだから大丈夫よ」

K：相手は車かよ！　ってか、俺スゲー丈夫じゃねっ！？　車のバンパーはブッ壊れてるのに俺は膝をすりむいただけって俺スゲー丈夫じゃねっ！？

A：自分の丈夫さに驚く圭佑。

K：俺もビックリだよ！現在、『圭佑＞車のバンパー』と言う硬さの方程式が出来上がってしまったからね！！

A：「大丈夫みたいだから私はこの辺で行くねっ。気をつけるんだぞっ」

圭佑の頬に軽く口付けをして女性は颯爽と車で去って行った。

「え……俺、キスされちゃった」

唇つて柔らかいんだな……。そんな感想を抱き、しばし呆然とする圭佑。

「あれ？俺、事故られてキスひとつで示談？！むしろ気を付けるのはお姉さんあなたじゃないですか？！」

K：これは当て逃げ確信犯だな。

A：若干の怒りも覚えたが、圭佑は初めてのキスの感触でそんなことはどうでも良くなっていたようだ。

K：どうでも良いの？！車に跳ねられてんのに頬にキスされたらどうでも良くなっちゃうの？！また、『キスの感触＞車に跳ねられる』と言う新しい方程式が出来上がってしまったよ！

A：『車に跳ねられるのも、痛くて気持ち良い！』と思う圭佑であった。

K：思つかバカ！車に跳ねられて気持ち良いって俺はどんだけ極めつけの変態M男だよ！！

A：キスの感触で呆然とした気持ちのまま学校を目指して再度走り出す。

K：俺、桁違いに変態で丈夫だな。

A：その先の曲がり角で、再度誰かと激しくぶつかる。
「きやつ」

「！」

やたら可愛い女の子が俺の目の前に居た。

K：きつと、ヒロインキタ——（。　。　）——！！！！

A：「私の鞆の中身が……」

「ごめんね。俺が急いで走ってたばかりに」

うわああ！なんか問答無用で可愛いいつ！！圭佑は心の中で叫んでいた。

「いえ、私もボーっとしていたので……」

辺りに散らばる鞆の中身。圭佑は急いで拾い集める。

K：なんかこれ、もうお約束の展開じゃね！？

A：彼女が申し訳なさそうに言う。

「尖ってて危ないので、自分で拾いますから大丈夫ですよ」

圭佑は急いで散らばった鞆の中身を拾い落とさないように握り締めながらこう言う。

「大丈夫。俺が悪いんだから、俺が拾うよ。既にもう結構拾ったし。尖ってるのってコンパスとか？」

「いえ、撒き菱です」

K：なに鞆に入れてんだよ！！

A：「痛ってえええええ！俺スゲー握っちゃったんだけど！撒き菱スゲー握っちゃったんだけど！」

「私の撒き菱スゲー握っちゃってるんですけど！私の撒き菱を大出血しながらスゲー握っちゃってるんですけど！」

K：女の子、急にキャラ違うね！？

A：「あ、ごめんなさい。私、何かあるとちよつとボケたり突っ込みとかしたくなっちゃうんです」

K：なんだそりゃ（笑）

A：「ああ、そうなんだ。面白くて俺はイイと思うけどなあ」

少し変でも可愛いから全然良いやと思いつながら笑顔で答える。

K：可愛いと許せちゃう時あるよな。

A：「それじゃ、私行きますね。撒き菱拾ってくれてありがとうございまして！」

「うん。じゃあ気を付けてね」
走って行こうとする彼女。

俺は自然とこう口にしていた。

「あつ、名前だけでも教えてくれない?!」

K：あれ?!もしかして俺、一目惚れしたのか?!

A：「えつと……私は」

彼女はなかなか言おうとしない。

K：脈なしか？

A：「あれ、俺変なこと聞いちゃったかな？」

「あつ！」

彼女は何か閃いた様子。

「そうよ、私はさそり座のおんな」

私のポケ決まったわ！と言わんばかりの顔とポケを残して彼女は走り去って行った。

K：レベル高けえな！！この女の子、違う意味でレベル高けえよ！

A：俺は、あまりのレベルのポケに突っ込みを入れることも出来ずに呆然と立ち尽くしてしまった。

K：これは、ツツコミ難しいわ。むしろこれは無言で「え？！何言ってるの？！」って驚きながらスルーするのが正解だな。

A：「あつ、学校行かなきゃ」

そして、俺は遅刻ギリギリで学校に行くのであった。

『一部 完』

K：終わったか。それにしても、ギリギリに家を出て結構トラブルあったのに間に合うってすごいな。

A：そこは気にしないでくれ。

K：あとさ、情景描写があまり出来てないんだけど。

A：そこも気にしないでくれ。

K：キャラの見た目が描写されてないんだけど。

A：もう、俺の事を「気になる人」だなんて言わないでくれ！

K：言うてねえよ！それだと、俺がお前を好きみたいになっちゃう
だろー！！

A：俺、お前の気持ちに応えて良いのか解らないんだよ！

K：気持ち悪い事言っな！

A：俺も、お前の事好きだよ…。

K：「も」って何だよ！俺はお前の事好きでもなんでもないからな
！

A：…ツンデレか。

K：違うわー！リアルに否定だよ！！

A：じゃあ、次回の話はお前の家行つて引き籠もって書いてもいい
…？

K：嫌だ。全力で拒否する。

A：俺も、その拒否を拒否する！

K：…このわがままだ！

A：今回は俺とお前のB L要素入れるから。

K：お願いだからやめてくれ。

【会話ネタ】ラノベ風漫才。（後書き）

毎回、最後まで読んでくれた方ありがとうございます！！

やってしまった感満載のクオリティーでお送りしてしまい申し訳ありません。

これなら普通に以前に書いた「昔話」みたいな感じのネタの方がテンポ良い気がしてならない（笑）

まあ、何事も挑戦だと思えますので（>ω<:）

また、近いうちに新作を書き上げる予定ですのでお時間のある方はまた覗きにきていただけると幸いです。

今回は話の関係上ツッコミ弱めですが、新作は以前の通りツッコミ強めな感じに仕上げるので宜しくお願い致します！（笑）

ちなみに原作（緋村涼物語。（仮））も載せておりますので併せて楽しんで頂けたら幸いです！！

【会話ネタ】秋。（下ネタ多数、下ネタ嫌いな方注意！）（前書き）

先に書いておきます。

下ネタが多いので、下ネタが苦手だったり嫌いな方は読まないようお願い致します。

ここまで下ネタ多いのは最初で最後かも知れません。

正直な話、下ネタは「ウケて当たり前」と言われていて敬遠されている部類の物です。

その上、自分の下ネタは大して面白くない上に不快感を与える可能性があります。

星霧は基本的に、ストレートに下ネタを言うのは好きではないので自分なりの工夫を持って書いてみました。

最低！最悪！ふざけるな！！こんな奴の他の作品なんか絶対見ない！と思う方が多数出てくると思いますが、これも星霧の一面なので理解して頂けると幸いです。

「下ネタでも構わない！！」と言う方のみ、この先をお読み下さいませ。

それでは、宜しくお願い致します！！

【会話ネタ】秋。（下ネタ多数、下ネタ嫌いな方注意！）

A：いやあ〜！夏も終わって涼しくなってきたね〜！！！！

K：何そのテンションの高さ。なんか初っ端からム力つくんだけど。

A：秋だよ！秋！

K：そうだな。秋だな。

A：秋！あき！アツキーナ！！

K：最後違っちゃってるからね。テンションは高くてもいいから落ち着きなさい。

A：アツキーナと結婚するんだ！

K：うん。もつと落ち着いて現実を見る。

A：それでも秋だね〜！

K：まあな。でも、秋といったら色々あるじゃない。

A：あるね！お約束のやつがあるよね！！

K：まずは…

A：「性欲の秋」！！

K：「食欲の秋」だよ！最低だな！プレイボールの一回表からいきなりの下ネタかよ！！

A：この前さ、恐怖体験をしたんだよ！！

K：何だよ。

A：この間、エロDVDを借りたんだけどさ。

K：「性欲の秋」続行中かよ！

A：そのエロDVD、以前に見たことある内容だったんだよ！これって『デジャブ』ってやつじゃないかと思うんだ！！

K：それ、ただ単に同じエロDVD借りて来ちゃっただけだろ！

A：そうなのか！？

K：そうに決まってるだろ！男ならば、たまにあるはずです！

A：借りた記憶無かったんだけどなあ…。『激情版！ドラえもん×のび太 秘密の密室！』

K：なんだそれ！Bしか何なんだか意味不明を極めたエロDVDは！？ってか、良く借りる気になったな！

A：あ、そう言えばお前の見たそうなDVDがあったから借りてきた！

K：何をだよ。

A：えっと、『実はね…私、お兄ちゃんが大好きなの！ ニーソでコスプレ七変化』。

K：やめろおおっ！やめてくれええっ！！俺の性癖を暴露するな！
！…でも、ありがとう。家で見るわ。

A：秋の夜長を楽しんでくれ。

K：余計な事は言わんで良い。まあ、秋と言ったら他にもあるよね。

A：あるある！

K：次は…

A：「芸術の秋」！！

K：まともなの来たな。

A：それじゃ、女性のヌードでも描きますかね！

K：またも下ネタかよ！！ゴング開始から下ネタのワンツーパンチが来るとは思っても見なかったわ！

A：んゝ。今日はモデルが居ないので資料映像で描きましょうか。

K：今は、そんなのあるんだ。便利な世の中だな。

A：ピッ！（再生音）『お兄ちゃん！言われた通り服脱いだよ！』

K：それさっきのエロDVDだろ！！

A：まさに性欲の秋！！

K：それはさっき終わっただろ！

A：あぁっ！俺の股間の松茸が――

K：やめろ。その下ネタ今すぐやめろ。鎌持ちぎりってきて躊躇なく刈り取るぞ。この『しめじ』野郎。

A：そんな、せめて『えのき』野郎と言ってくれ。

K：グレードダウンしてるけどいいのか？　まあ、秋と言ったら他にもあるよね。

A：あるね〜！

K：次は…

A：「食欲の秋」！！

K：いいね〜。秋の味覚は美味しいものばかりだよな！秋の味覚と言ったら何があるかな？！

A：松茸。

K：うん。さっきのやり取りの後だから全く美味しそうに感じない。
むしろ食べたくない。

A：美味しいって！『松茸』に『しめじ』に『えのき』！

K：全部嫌だ。

A：俺の松茸ご飯食べるか？

K：言い方が嫌だ。「俺の『作った』松茸ご飯食べるか？」ならまだ良いけどそれは下ネタな予感がしてならない。

A：じゃあ、これなら食べるか？松茸と比喻した俺の松た――

K：下ネタストレート過ぎ！表現が直接的すぎだよ！もしかしてお前、死亡願望お有り？！今ここで俺に鎌で命と共にお前の松茸を刈り取られるのと、その下ネタやめるのどっちか選べ。

A：それなら、… 幼女にいたずらされたいです！

K：俺の選択肢無視か！そんな選択肢ないから！キラーパスならぬキラースルーも甚だしいわ。

A：幼女にいたずらして欲しい。特に重点的に俺の松た――

K：死にたいか！？刈り取られたいか！？それとも――

A：幼女にいたずらされたいです！

K：だからその選択肢はないんだよ！お前どんだけ幼女いたずらさ

れたいんだよ。

A：すごくされたい！

K：答えなくていいよ！気持ち悪い！！

A：俺はきつと気持ち良い！！

K：この鎌で本当に天国に送ってやろうか？

A：まあ、あと秋と言ったら『ハロウィン』とかだな！

K：上手く話逸らしたな。ああ、子供が民家を訪問してあの英語を言うやつな。

A：なんて言うんだっけ？！

K：「トリック オア トリート！」お菓子くれなきゃいたずらしちゃうぞ。って意味のやつ。正確には「いたずらされるかおもてなしするのどっちが良い？」って意味らしいけどな。

A：家に来た幼女に言われたい。「トリック オア トリック！」

K：最低だな！「いたずらされるのいたずらされるのどっちが良い？」って、幼女にいたずらされる一択じゃねえかよ！！

A：幼女にいたずらされたいです！（切実）

K：ド変態が！『（切実）』とかつけるな！

A：「トリック オア トリック松茸」 幼女に言われたいです！

K：幼女に「いたずらされるのと（俺の）松茸をいたずらされー」
って、また下ネタか！最低だな！そんなお前は樹海で一週間の野宿
と言っ名の強化合宿を命じる。

A：え、そんな事したら俺…

K：そうだな。下手したらー

A：とってもファッショナブルになってしまっじゃないですか！

K：なるか！普通死ぬだろ！何で樹海で野宿したらファッショナブ
ルになっちゃうんだよ！

A：ファッショナブル！！

K：お前、『ファッショナブル』って言いただけだろ？

A：アンサンブル！！

K：『ブル』しか合ってねえよ！！

A：シャア・アズナブル！

K：また『ブル』か！何で急にガンダム！？なんだ、お前は『ブル』
って言いたいのか！？お前の中で『ブル』がマイブームなのか！？

A：俺の松茸でオードブル！！

K：よし！この鎌でお前の自慢の松茸を刈り取る。

A：ブルブル。（震える）

K：それも『ブル』か！　ってかさ、もう『ブル』シリーズ飽きたわ。

A：え、飽きた？

K：そうだよ！飽きたんだよ！もう、『ブル』には飽き飽きだよ！

A：そう。俺が言わせたかったのは『秋』だけに『飽き飽き』って事。

K：上手い事言うね。いい加減にし――

A：幼女に俺の松茸をいたずらされ――

K：本気でいい加減にしろ！！

A：いい加減で松茸いじって下さ――

K：この鎌の切れ味を試す時が来た…。

A：ダッシュで逃げる！フルマラソンでどこまでも！

K：最後は『スポーツの秋』で×（し）めやがったか。…お後が宜しいようで。

【会話ネタ】秋。（下ネタ多数、下ネタ嫌いな方注意！）（後書き）

こんなヒドイ作品を最後まで読んでくださった方、本当にありがとうございました！

下ネタだけでお送りした季節ネタでした！！気分悪くなった方は本当に申し訳ありません（>ω<;）

秋のネタ書いてたらこんな風になってしまったのです（>ω<;）
星霧の変態っぷりは大目に見て下さると助かります。・・（ノ、）
。。。

次は、ネタをアレンジしてみようかな？と思ってます！

次回はいつになるか解りませんが、次回も宜しくお願い致します！
！

【会話ネタ】川柳・短歌風（前書き）

お久しぶりの星霧主です。

川柳・短歌風ですが文字数は合っていない部分もありますが気にせず読んで頂けると幸いです。

それでは、宜しくお願い致します！

【会話ネタ】川柳・短歌風

A：いやゝ。最近、色々怖いね。

K：どうした？

A：物騒な世の中だよな。

K：ああ。お前みたいなやつが世間をうろついている時点で物騒だからな。

A：ヒドい言いようだね。僕を歩くマシンガンみたいに言わないでくれる。

K：そこまで言っていない。あと、どっからマシンガンって単語持ち出してきやがった。俺、一言もそんな事言っていないよね。

A：夏はスイカの種をマシンガンのごとく飛ばすよ！

K：そっからか。まあ、確かに変態が街中でスイカの種をマシンガンの様に飛ばしてたら物騒には違いないな。

A：スイカバーのチョコの種でも出来るぞ。

K：どうでもいいわ。一生、種を飛ばせなくしてやろうか？

A：（お前が一番物騒だよ。）

K：ん？何か言ったか？？

A：いえ！最近物騒ですね！！

K：そうだな。物騒だな。

A：話は変わるけど、小学校の近くとかって標語とか掲示してあるよね。

K：ああ、看板とかで大きく書いてあったりするな。

A：遠まわしな文章だと解りにくいときないか？

K：そうか？

A：しかも、5・7・5にしているじゃん。

K：まあ、標語は5・7・5じゃなくても語呂が良ければ良いらしいけどな。

A：「気を付けよう 甘い言葉と 暗い道」

K：綺麗にまとまっているじゃないですか。

A：やはり、意味が若干解りにくい。

K：どこが？

A：まず、甘い言葉。

K：誘惑って事でしょ。

A：子供が解るか？！今時の子供が甘い言葉って言ったら「砂糖」か「シュガー」くらいだぞ！

K：どんだけバカなんだよ。お前の中の今時の子供。

A：あとはパルスweet（低カロリー砂糖）とかだぞ！

K：さつきから砂糖オンリーじゃねえかよ！お前が思ってるほど、子供は砂糖のカロリー気にしてないからね。他にも単純に子供が好きそうなもうちょいレベルの高い甘い言葉の誘惑あるでしょ？

A：あとは「浮気」とかな。

K：レベル上がりすぎだな。「浮気」はあまり小学生にはお馴染みではないと思うぞ。もっと大人になってからにしろなさい。確かに甘い言葉で誘惑だけども。ちょっとベクトルが違うのよね。

A：まあ、何はともあれ解りにくい。

K：そうか？

A：そこで、俺だったらもう少し解りやすくするね。

K：小学生の通学路の標語だぞ。どんな感じに解りやすくするんだ？

A：「気を付けよう 拉致に誘拐 殺人に」

K：怖い！怖い！怖い！！直接過ぎて怖いって！小学生が道歩けなくなるよ！

A：「気を付ける 過激な表現 控えめに」

K：お前の気持ちを標語にするな！そんなのは要らないでしょ！もしかしくなくても、あなたはバカですか！？

A：「怒られた 目の前のヤツ 殺したい」

K：怖い事言っな！あのさ、さっきからストレート過ぎて怖すぎるからもう少し違う感じで怖いやつにしてくれないかな？

A：了解。

K：宜しく頼む。

A：「気を付ける パンツ被った 変態に」

K：確かに違う感じで怖いけども！そんなヤツは、言われなくても見た時点で気を付けます！

A：「気を付ける 全裸で歩く その痴漢」

K：これは、もっと気を付けるわ！

A：「気を付ける 右に変態 左に痴漢」

K：怖過ぎるよ！そんな状況！右の変態はパンツ被ってて、左の痴漢は全裸なんだろ！？何その変質者によるサンドイッチは！！

A：「気を付ける 右の変態 お父さん」

K：それは違う意味でさらに怖い！

A：「大丈夫 左の痴漢 知らぬ人」

K：なら怖くない…じゃなくて！それは本気で怖いだろ！！

A：まあ、変な人には気を付けろって事だな。

K：変態には注意しろって事は解った。

A：5・7・5でも解りやすい方が良いだろ？

K：お前の5・7・5はどうかと思う点もあるが。確かに解りやすいのも重要だな。5・7・5の基本に7・7を足して短歌風にしても良いかもな。

A：おお。良い発想だな。

K：川柳の次は短歌風ってのは結構普通な流れだと思っけどな。なんかお前に褒められると気持ち悪いわ。

A：じゃ、こんなのどうだ？！

K：もう、思い付いたのか！？

A：「商品が 到着しました ありがとう これから評価 お付けしますね」

K：どこのヤフオクのやり取りだよ！オークションやらない人には

解らないネタすぎるぞ。

A：大丈夫。基本的にこのネタの作者はあんまりその辺を気にしないで書いてるから。

K：大丈夫じゃねえよ！余計な事は言わないで頂きたい！それでもマニアックなネタは遠慮気味に書いてます！！

A：次、行きます。

K：どうぞ。

A：「この胸の 熱い想いは 何だろう」

K：何でしょうね。

A：「これはきつと 君が好きなんだ」

K：うん。非常に気持ち悪い作品ですね。お前が書かなきゃ素敵な作品です。

A：え〜。

K：お前は基本的にロマンチックなの書きちゃダメなの！解った？
！！

A：あ、出来た。

K：何？

A：「怒られて　こんな気持ちは　初めてだ　胸が苦しい　何？この気持ち」

K：そう、、それが恋ってやつだ。その証拠に胸がキュンキュン言ってるだろ、ってバカ！！俺にときめいたりキラめいたりするの禁止！！

A：よし、俺と高校3年間のメモリアルを作ろうじゃないか！！

K：やめろ。やめろ。やめろ。気持ち悪い。そして、「マニアックなネタ遠慮気味にしてる」って書いたすぐ後にマニアックなネタを持ってくるな。

A：好つきとか♪嫌いとか♪最初に言い出したのは誰なのかしら♪

K：やめろ！著作権的に危ない！ってか、ここまで書いたらアウトだけだな！！（笑）ってか、これ読んでる人、多分このネタ（ときめきメモリアル無印）9割の人が解らないぞ。

A：いいよ。一部が解れば。

K：ダメだつて！それが読者の興味を削ぐ原因になるんだよ！！話題変えるよ！

A：じゃあ、5・7・5を言った後に7・7を付け足す感じの考えた。

K：それ、お願いします。

A：「大丈夫？ 君の親友 知人じゃない？」

K：これは悲しい！リアルに悲しい！！自分は親友だと思ってたのに相手はただの友達としか思ってたなかったパターンだな。

A：「あれ？え〜っと 君誰だっけ？」

K：それは、もはや友達ですらないだろ！これは精神的ダメージすごいな！

A：実話です。

K：悲し過ぎるわ。もっと明るい話題で行きましょう。

A：解りました。

K：宜しくお願いします。

A：「おばあさん 重そうですね その荷物」

K：お！親切だな。

A：「僕が持ちましょう その財布」

K：荷物を持て！なんでピンポイントに財布のみを持つんだよ！

A：「こりゃすごい！ たくさんお金 持ってますね！」

K：開けるなよ！勝手に他人の財布開けて見ちゃダメでしょ！！

A：「通帳と 印鑑は今 持ってますか?！」

K：いやいやいやいや! やめなさい! もう、そこまで行くと笑えない。

A：えゝ。代わりに下ろして使つてあげようと思つたのに。

K：よし、じゃあ俺がおばあさんの代わりに包丁でお前を三枚に下ろしてやるつか。

A：それは勘弁して下さい。

K：じゃあ、次のネタを宜しく。

A：それも勘弁して下さい。

K：仕事放棄か!

A：いやあゝ。もう、そんなにも思い付かないんですよ。いい加減にしろっゝどうもありがとうございましたゝ!

K：勝手に終わらすな!

A：じゃあ…お願いします。

K：俺!?

A：もう、他は居ないじゃないですか。

K：しよしよしよ、しよ、しょうがないな。こゝこゝ、ここ今回だけ

なんだからなっ！

A：ツンデレだ。

K：緊張してんだよ！

A：それじゃ、お願いします。

K：じゃあ、太宰治の「走れメロス」を5・7・5にした、俺が考えたやつ行くぞ。

A：ああ、メロスが親友のセリヌンティウスのために走って戻って来るシーンですね。

K：「メロスはね 戻って来たんだ 友のため」

A：「女性の下着を 握り締め」

K：変態か！メロス変態か！ってか、俺の5・7・5に勝手に付け足すな！ メロスは何をしに片道十里（約40キロ）を戻ってるんだよ！

A：「走るエロス」だな。

K：名作を汚すな！それだと、なんかエロの塊が走ってるみたいじゃねえかよ！もう、お前が処刑されてしまえ！！

A：メロスは激怒した。

K：何でだよ！

A：これ…縞パンじゃないじゃないか！！

K：どこのヲタクだ！！

A：「パンツ持つ 俺にドン引き セリヌンティウス」

K：そりやそうだ。自分を助けるために走って戻って来た親友が女性の下着握ってたらドン引きだよな。

A：「白い目で 見られたメロス 言いました これ友のため 頼まれただけ！！」

K：ひどいな！下着の言い訳して、さらに親友に変態の罪をなすり付けちゃったよ！なんか最後の2言はカタコトっぽくなってるしな。

A：「パンツクレ セリヌンティウス 言ッテイタ」

K：まだ言い訳するか！最低だな！！

A：「王様が パンツで友を 解放した」

K：変態だ！公衆の面前でパンツを受け取って罪をゆるすなんて変態な王様だな！

A：まさに、変態の王様だな！！

K：別に上手い事言えとは言っていない。

A：次、行きましようか。

K：じゃあ、テスト前のあるある5・7・5です。

A：良いですね。

K：「テスト前 今日寝ないで 勉強だ」

A：「何故かはかどる お部屋の掃除」

K：確かに解るけど！もう大掃除並みにめっちゃくちゃ掃除しちゃうんだよな！ってか、俺の5・7・5の後に付け足すのはデフォルトですか？

A：うん。

K：そうか。

A：じゃあ、次お願いします。

K：「テスト前 カンペ作って 完璧だ」

A：「何故だろう カンペ作ったとこ 覚えてる」

K：そうなんだよな！カンペ作るとその場所だけ異様に覚えてるんだよな！

A：あのさ、やっぱり俺じゃなくてお前がボケるってのはテストの話の後だけに白紙にしてくれない？

K：ああ、やっぱり無かった事にしてくれて事だな。

A：まあ、それもあるんだけど白紙のテストだけに…

K：何？

A：0点って事だな。

K：お前、ひどいな！！

【会話ネタ】川柳・短歌風（後書き）

毎度毎度、最後まで読んで頂きありがとうございました！！

年末のM - 1グランプリ、年始のR - 1ぐらんぷりで忙しく久しぶりの更新になってしまいました。

次回はキングオブコントで、少し時間がありますのでまた時間が出たら作ってUPしたいと思っています。

また、更新した際は読んで頂けると光栄です。

読んでくれた皆様。貴重な時間を星霧のために使ってくれて本当にありがとうございます！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5879/>

【会話ネタ】とある変態の妄想目録。【コント・漫才風】

2011年10月7日04時44分発行